



千葉大学医学部同窓会報 第169号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
みのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/



みのほな同窓会総会

開催のお知らせ

平成27年度みのほな同窓会総会を左記により開催いたします。

1. 日時
平成27年6月13日(土)
午後4時より
2. 場所
銀座アスターお茶の水賓館
電話 03-3293-8011
3. 議事等
(1) 名誉会員の推薦について
(2) 年次活動について (報告事項)
(3) 平成26年度決算について
(4) 平成27年度事業計画について
(5) 平成27年度予算案について
(6) 役員選出について
(7) その他

- ③ 常任理事 (理事会を総会と兼ねる)
 - ④ 評議員
 - ⑦ その他
- 千葉大学医学部附属病院の現況報告
千葉大学医学部附属病院長 山本 修一先生
みのほな同窓会賞表彰式
みのほな同窓会賞受賞者挨拶
みのほな同窓会特別表彰

特別講演

獨協医科大学学長
稲葉 憲之 先生
「B型肝炎ウイルス母子感染対策の推移と更なる工夫」

懇親会 午後6時より

於：銀座アスターお茶の水賓館
水賓館
会費 一万円
学生会員は無料
(当日受付にて申し受けます)
個人情報保護のため同封のシールを貼り、返信用葉書にて出欠の返事をお送りください。

なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長にご一任頂いたものとさせていただきます。(6月5日必着)
東京のみのほな総会は同日同所にて午後3時30分〜4時に開催します。

医学研究院長・医学部長就任挨拶



免疫発生学 中山 俊憲 (山口大・昭59)

このたび、平成27年4月1日より横須賀教授の後任として医学研究院長ならびに医学部長を務めさせていただきます。

免状発生学 中山 俊憲 (山口大・昭59)

いたたくことになりました。長い伝統を誇る千葉大学医学部の医学部長を務めさせていただきますことは、大変光栄に思いますと同時に、その責任の重さを改めて痛感しております。

私は、昭和59年に山口大学医学部を卒業後、東京大学医学部で免疫学教室を主

宰されていた多田富雄先生(昭34)の教室に大学院生として入り免疫学の研究をスタートしました。その後、米国NIHへの留学を経て、平成3年に多田先生の教室に助手として戻り、合計すると多田先生と10年以上一緒に過ごしていただき、研究(次面につづく)

平成26年度千葉大学医学部卒業証書伝達式・祝辞

3月23日(月) 於 記念講堂

みのほな同窓会長 伊藤 晴夫 (昭39)

皆さん、ご卒業おめでとう御座います。ご家族の皆様もお喜びのことと思います。千葉大学医学部は学問的にも社会的にも素晴らしい先輩を輩出しておりますが、これらの方々には並ぶような、さらには超えるような人物になるよう努力して頂きたいと思っております。皆さんは将来、自分が考えている以上に社会や地域に対して強い影響力を持つことになりそうです。本日、多くのご家族の方々がご臨席されておりますが、このような恵まれた家庭環境に育ったことに感謝すると共に、世の中にはこのような機会に恵まれなかった方々が沢山いることを忘れて下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にする

皆さん、ご卒業おめでとう御座います。ご家族の皆様もお喜びのことと思います。千葉大学医学部は学問的にも社会的にも素晴らしい先輩を輩出しておりますが、これらの方々には並ぶような、さらには超えるような人物になるよう努力して頂きたいと思っております。皆さんは将来、自分が考えている以上に社会や地域に対して強い影響力を持つことになりそうです。本日、多くのご家族の方々がご臨席されておりますが、このような恵まれた家庭環境に育ったことに感謝すると共に、世の中にはこのような機会に恵まれなかった方々が沢山いることを忘れて下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にする

祝 叙勲

平成26年 秋の叙勲
旭日双光章
高澤 五郎 (昭31)

紙面紹介

総会開催のお知らせ	2118515131165341
卒業祝辞	2220271413102545211
就任挨拶	
叙勲感想	
人事異動	
最終講義	
特別寄稿	
著書紹介	
地区のみのほな会報	
クラスの会	
編集後記	

でも大切な場所であり、医学部だけでなく薬学部や看護学部なども使用されており、まさに、亥鼻キャンパスのシンボリックな建物となっております。

同窓会は、みのほな同窓会報を年3回発行しておりますが、最近ではオンライン会報も充実してきました。皆さんも積極的に参加して下さい。みのほな同窓会には全国に、各地区のみのほな会があります。将来どこへ行っても、きっと皆さんの力になってまいります。皆さんも、これからは、今度は自分達が千葉大の後輩達、あるいは母校を支援するのだ、という意識を徐々に育んで行って頂きたいと思っております。そうすることを通して、皆さんは、ますます母校を愛し懐かしむと同時に、千葉大学医学部の卒業生、同窓生であることに一層の誇りに感じて頂けるものと信じております。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきます。

(中山先生の続き)

のみならず文章の書き方から人生の楽しみ方まで様々なことについてお話しただき薫陶を受けました。平成10年に千葉大学医学部の谷口克先生(昭42)の教室に助教として異動し、研究室の運営なども学ばせていただきながら、研究教授を経て谷口先生が理化学研究所に異動された平成16年から後任教授として免疫発生物学教室を主宰させていたでいています。

千葉大学医学部・大学院医学研究院は平成16年に法人化され、いろいろな新規の取り組みを行いながら模索を続けてきました。平成24年に、20年後の医学部・大学院医学研究院のあり方を若手の教授が中心となつて検討し、「千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想」を制定しました。現在はこの構想実現のために改革を進めております。医学研究院のホームページ(<http://www.m.chiba-u.ac.jp/about/granddesign.html>)にも掲載されていますが、その内容の一部をこの紙面を借りてご紹介いたします。千葉大学医学部・大学院医学研究院は医学部附属病院と緊密に連携し、「治療学」の研究推

進と「治療学」研究医、治療学研究者」の育成を目指します。

同窓会の先生がたにおかれましては、よくご存知のことと思いますが、千葉大学医学部は、これまで100年以上に亘り、「治療薬や治療法」の開発に秀でた医学者、最先端の治療を実践する優れた臨床医や病める者の目線に立つて診療を行う、心優しい医師を日本全国に数多く輩出し、社会に大きく貢献してきました。このすばらしい人材育成の伝統の下に、「治療学」を「治療の理論及び新規治療法の開発を系統的に研究・実践する学問分野」と位置付け、文部科学省が進めてきた21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム、博士課程リーディング大学院プログラムなどの大学院改革プログラムを継続して獲得し、がんや免疫・アレルギー学領域の治療学ならびに慢性炎症を基盤に発症する心血管疾患の治療学など幅広く治療学に携わる人材を育成してきました。千葉大学が「世界最高水準の教育研究を目指す大学」として発展する方針であることも踏まえ、千葉大学医学部・大学院医学研究院と医学部附属病院は、「治療学

の研究推進を最重点項目として設定しました。基礎研究から臨床研究にいたる医学研究をチームレスに推進する中で、日本をリードしグローバルに活躍する医学研究者を育成するとともに、次世代の医療を担う優れた臨床医を育成していきます。基礎研究のシーズを新規の治療法や治療薬の開発に結びつける橋渡し研究や臨床研究を重視し、更に患者目線での治療のあり方なども研究する広い意味での「治療学」を念頭に置いています。これによって、将来ますます多様化する社会のニーズに指導者として対応できる人材を育成・輩出し、医学と医療の分野で社会貢献を果たすことができると思っています。

の研究推進を最重点項目として設定しました。基礎研究から臨床研究にいたる医学研究をチームレスに推進する中で、日本をリードしグローバルに活躍する医学研究者を育成するとともに、次世代の医療を担う優れた臨床医を育成していきます。基礎研究のシーズを新規の治療法や治療薬の開発に結びつける橋渡し研究や臨床研究を重視し、更に患者目線での治療のあり方なども研究する広い意味での「治療学」を念頭に置いています。これによって、将来ますます多様化する社会のニーズに指導者として対応できる人材を育成・輩出し、医学と医療の分野で社会貢献を果たすことができると思っています。

日本の少子高齢化、慢性的な赤字体質などにより国立大学法人への運営費交付金が毎年のように減額される中、千葉大学医学部・大学院医学研究院でもこの10年で15名を超える教員が削減され、特に基礎医学系の研究・教育活動や教室運営に支障をきたすようになってきました。そのため、前述のグランドデザイン将

来構想に基づいて、基礎系と臨床系を融合させることにより、大学院医学研究院では講座の統廃合などの組織改編を進め、より機動的な体制に移行しつつあります。基礎と臨床の統融合を組織全体として促進し、研究と教育の両面において千葉大学ならではの優れた体制を整備することが必要です。また、医学部・大学院医学研究院と医学部附属病院の事務組織も含めた効率的な連携が必要と思われま

す。この点につきましては山本修一病院長と緊密に連絡を取りながら協力して改革を進めてまいりたいと考えています。

また卒業臨床研修必修化以降、全国の大学病院において研修を受ける卒業生が減少してきました。千葉大学も例外ではなく、医学部附属病院で研修をする本学出身の優秀な人材が激減しています。卒前や卒後の研修プログラムの見直しとともに、研究や診療の面で千葉大学大学院医学研究院と医学部附属病院がさらに魅力的なものになるよう努力するための方策を考えたいと思っております。

(二期6年間)となり、文部科学省からは法人化の主旨に沿った形で大学の独自の改革発展を強く求められております。そのような文部科学省の方針の一環として、運営費交付金の配分方法が競争的なものに見直されます。千葉大学としては、ここ

は大きなチャンスと捉えて徳久剛史学長と緊密な連携を取りながら、医学部・医学研究院が千葉大学を先導する形で、競争を勝ち抜き覚悟であります。

もとより浅学非才の身ではございますが、教職員の皆様と一緒に頑張ってさらに魅力的な千葉大学医学部・大学院医学研究院とするよう全力で取り組む所存です。そして、本学の卒業生が日本の医学及び医療を支えるリーダーとして活躍出来るよう教育して参りたいと考えています。おのほな同窓会の先生がたの更なるご指導とご支援を切に御願ひ申し上げます。

平成26年度 卒業証書・学位記伝達式



受章の挨拶

瑞宝重光章

瑞宝重光章受章のご報告とご挨拶

鈴木 守 (昭39)



平成二十六年秋の叙勲に際し瑞宝重光章受章の栄に与かることになり、十一月五日に家内を伴い宮中に昇殿いたしました。安倍晋三内閣総理大臣より章記および勲章を拝受し、続いて豊明殿で天皇陛下よりお言葉を賜りました。

受章の知らせをいただいた時に千葉大学長(一九六八〜九)を務められた恩師川喜田愛郎先生が叙勲を辞退されたことをまず思いました。

先生の身近な方のご主人が戦没者叙勲で勲七等に叙されたことに思いをいたされた先生は「好きな学問を続けただけの自分が戦死した人より上位の勲章をいただくことはできない」とおっしゃって、辞退されたとお聞きしています。そうなる学問も誠に不完全な私

はとても叙勲をお受けする事はできません。

しかしその学問は拙くはありましたが群馬大学の寄生虫学教室の共同研究者の諸君と共に進めたものでありました。そしてさらに医学部長、学長というポストの職務に至っては独りで進めることはありえず、大学の教職員による共同作業と、さらには学生諸君の協力もなくては出来ません。大

学として大きなプログラムを推進することになりますと関係官庁の担当官との共同作業も必要になります。たまたま私が群馬大学長を拝命した時期と一致して、日本の大学として初めて

(世界的にもハイデルベルク大学に続いて二番目)となる重粒子線癌治療装置を群馬大学に設置する計画がめぐって参りました。

群馬大学という地方大学に総予算が一二五億円に及ぶこの計画を進めるためには学内の学部の垣根をこえた協力が求められることはいうまでもありません。

群馬県にも共同事業者として予算を計上していただき県下三十七市町村すべてがこれを分担してくれました。文部科学省、財務省等の担当官各位には大変なご尽力をいただきましたことはいうまでもありません。

産業経済関係筋から大小を問わず又個人からもご協力をいただき、多大のご寄付をいただきました。ご寄付の申し出をいただいた会社を訪ねてみるとプレハブのような建物の中で仕事がおこなわれている事例もあり思わず頭が下がったこともありました。

学長を拝命している時に進められた以上の企画・計画が文部科学省が叙勲の推挙をする上で多分一定の意味を持っていただいたことと思います。

その経緯をふり振り返り今般の叙勲は私の周辺と一緒に汗を流して下さった同志全員を対象とする顕彰であると考えない訳には参りませんでした。

私はその代表者としてこの栄誉をお受けすることに致しました。

叙勲について恩師とは違った対応することになった私に対し、天にて再会した時、川喜田先生がどのような評価を下されるか、学

生時代に試験を受ける時のような気分です。恩師、同窓の皆様との対話は以上のように地上よりそのお姿が消えた後も、いつまでも続

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章を受賞して

嶋田 裕 (昭35)



昨春秋の叙勲で瑞宝中綬章を賜りました。私は1954年に千葉大学に入学し、2000年に退職するまでの46年間、千葉大学とかかわり、特にその後半の35年間は文部教官を勤めました。

今回、このような栄誉を頂きましたのは、この間における千葉大学の多くの方々のご指導とご協力のおかげであると感謝しております。

インターン終了後、私は大学院で野中俊郎教授(解剖学第二講座)に師事し、実験発生学の研究をしました。

同修了後の方向付けがでないでいるときに、胚の組織形成の研究で著名なA.A.Moscona教授(シカゴ大学)からポストドクとし

くものであることをこの機会に実感したことを最後に申し述べてご報告・ご挨拶といたします。

1965年に米国に行つた頃は、細胞生物学の黎明期で、Moscona教授の研究室ではin vitroで胚細胞間の認識・選別に関する研究が精力的に行われており、私は胚神経・筋細胞間の相互作用について研究しました。また当時はH.H.Helwigや江橋節郎教授(東大)らにより筋の収縮機構が解明されてきた時期で、D.A.Fischman教授とともに培養胚筋細胞分化の微細構造を調べました。この2つが私の以降の主要研究テーマとなります。

帰国後は、丸山工作学長、大日方昂教授(理学部)、加濃正明教授(北里大)らの協力を得て、形態学・筋蛋

白免疫化学・電気生理学の技法を用い、筋細胞の分化と神経細胞との相互作用(特にin vitroにおける神経筋接合の形成)を学際的に研究しました。

1975年に教授就任後は、福山教授の肉眼解剖学の教育を引き継ぎ、研究面では国内外から大学院生を受け入れ、筋細胞の構造形成の研究をさらに進めました。その後、この分野の研究も分子生物学への潮流が次第に顕著になってきましたが、定年までに筋原線維形成について細胞生物学的な解明に一定の成果を得たと考えます。

定年後、すでに15年が経過しました。同窓会の臨床の先生方のお蔭で何とか健康を維持しております。そして第二の人生では高齢化社会にいささかの貢献をするとともに、夏冬それぞれ適度にスポーツを楽しんでいます。

最後に、おのほな同窓会員のひとりとして、同窓会の皆様方のますますのご多幸とご活躍を祈り、また千葉大学医学部が今後ますます発展し、医学・生命科学の分野で世界的な成果を引き続きあげて行かれることを期待しています。

新薬で、未来をひらく。



MSD

MSD株式会社 www.msdd.co.jp

旭日双光章

平成二十六年秋の叙勲で

旭日双光章を受章

高澤 五郎 (昭31)



36年3月 同大学院修了
千葉大学医学部教授会に学位論文提出
医学博士の学位を授与される
40年4月から川鉄健保千葉病院に勤務

貧農の五人姉弟の末っ子で次男坊として生まれた身で受勲したのは、偏に千葉大学医学部に入学・卒業して、医師として世の為、人の為、僅かでも役に立つ仕事ができたとお蔭だと思ひ感謝しております。

医学部現学生の皆様が益々努力なされて、千葉大学の栄誉をもっと高めて下さることを期待致します。
略歴

昭和6年5月20日 千葉県市原郡五井町岩崎の農家に生まれる。
25年3月 千葉県立市原高等学校卒業
25年4月 千葉大学文理学部入学
27年4月 千葉大学医学部入学
31年3月 千葉大学医学部卒業
32年 医師国家試験合格
32年4月 千葉大病院第一内科教室大学院に入学

以後十年間川鉄病院 内科

副部長から内科部長へ

51年春 故郷の市原市五井

で高沢内科医院開業

62年6月 市原市議会議員

に初当選

以後四期16年地方自治活動

平成26年11月3日 地方自治

功労の関係で旭日双光章

を受章

11月11日 皇居豊明殿にて

天皇陛下に拝謁

井村臨床研究賞 受賞報告



西川 哲男 (昭47)

研究で、臨床への橋渡し研究や、疾患の病因解明や診断治療法の開発で成果をあげた個人ないしグループを対象とする賞です。自然発症高血圧ラットを開発した岡本耕造先生の業績を記念して本財団が設立され、2004年からこの研究賞が贈られています。初回の受賞者はアディポネクチンを発見した大阪大学名誉教授の松澤佑次先生です。以降は国立循環器病センター名誉総長の御前照雄先生、さらに馬淵宏先生(金沢大学)、中尾一和先生(京都大学)等、我が国の patient-oriented research の世界的なリーダー達が受賞されて

今般、第11回井村臨床研究賞を受賞致しましたので、同窓会の皆様に報告致します。平成27年4月に、関西で医学会総会を、と積極的に広報している総会会頭の井村裕夫先生(京都大学元総長)の名前を冠した賞です。公益財団法人成人血管研究振興財団の理事長であることから井村臨床研究賞と呼ばれるています。心血管系疾患およびその基盤となる代謝異常に関しての臨床

います。

平成26年12月13日、京都

成人血管病シンポジウムの

際に授賞式が行なわれ、井

村臨床研究奨励賞を受賞し

た新進気鋭の3人の研究者

と共に、授与式に参席致し

ました。受賞理由は、原発

性アルドステロン症の診断

治療法の確立と、その病態

解明に関する研究」であり

ます。当日は、記念講演と

して、コモンディーズと

しての原発性アルドステロ

ン症・心血管合併症撲滅へ

の挑戦」と題して受賞記念

講演を致しました。高血圧

患者では本疾患が高率に見

逃されていること、血圧上

昇機構と別にアルドステロ

ンそのものによる血管傷害

(炎症による組織壊死の修復

機転としての線維化) が起

き、脳卒中、心筋梗塞、腎

不全をもたらすことを強調

し、また最近の大きなトピ

ックスである体細胞変異に

よる副腎病変の病態解析に

つき概説致しました。

思い起こすと、まだ大学

紛争や医局闘争の名残のあ

る昭和47年3月千葉大学を

卒業し、大阪大学から赴任

されたばかりの熊谷明教授

主催の第二内科に入局しま

した。元々細胞内情報伝達

機構に興味を持ち、内分泌

を専攻する事にしました。

入局早々の研修医の頃、教

授に副腎疾患の研究をして

は、と言われ、以降現在ま

で同じテーマで一貫して基

礎的臨床的研究を継続して

きました。とても時代の流

行に即した仕事とも思えま

せんが、興味は尽きず、不

横綱審議委員長就任のご挨拶

守屋 秀 繁 (昭42)



をどんどん辞めさせてもらいました。その後、鹿島労災病院院長を4年、千葉市病院事業管理者を3年務め、昨年3月で公職を辞し、それまで人生であり真面目に遊んでいなかったのが、翌月から必死で遊ぼうと企んでいましたし、実際、昨年はゴルフを年間71ラウンドしました。

これからはあまり仕事をしないぞと決意していたのに、昨年末から異変が起こってしまいました。10年近く前から袖ヶ浦カンツリークラブのコース委員や副委員長を仰せつかっていました。今年4月からプロ・キャディー委員長をするよう命じられてしまいました。これだけでも想定外の仕事でしたが、さらに今回の横綱審議委員長です。横綱任期10年、委員長任期2年であり、

私には千葉大学医学部整形外科教授を定年で辞める頃から人生の軽量化を図ると宣言し、色々な委員や役員

陰でもありません。最後にな

りますが、多くの内外のト

ップリサーチャーと議論し、

共同研究して頂ける喜びと

共に、この賞に推薦して頂

いた多くの先生に感謝しま

がら、受賞の喜びをお伝え

致します。

私は教授退任直前に委員を

お受けし、今回委員長を命

じられましたので、2年後

には丁度、私の横綱10年終

了になります。長い間相撲

を堪能させていただきました

ので、今回の委員長は、

日本相撲協会に対する最後

のご恩返しにはなるかなと

思っています。

それにしても、委員長に

なるとは全く想定外の事

でした。大変な重責ですし、

発言の一つ一つは大変重

いものがあると思っ

ています。10年近く

に相撲を観戦しなければ

ならないと思っ

ています。それ

もまた人生の楽しみの一

つと考えてやっ

ていこうと思っ

ています。

今回の横綱審議委員長のご下

命は天がまだそんなに楽な

人生を歩んではいけない、

と言っている」と理解してい

ます。教授、病院長、管理
者であった時には頑
張りませんが、日本の国技
である大相撲に対して以前
から考えていることもあり、
楽しみながら、職責を果た
したいと思っております。そ
して2年後に退任します。

むのはな同窓会支部長挨拶

むのはな同窓会

栃木県支部長を引き受けて

むのはな同窓会栃木県支部
新支部長 崎 尾 秀 彰 (昭44)



本年1月のむのはな同窓
会栃木県支部総会にて、坂
田早苗先生(昭34)から会
長を引き継ぐことになりま
した。ご指導、ご支援を賜
りたく、よろしくお願い申
し上げます。

昭和43年にインターン制
度は廃止されており、教授
会との交渉を重ね、卒業翌
年から自主カリキュラムに
よる研修を開始しました。
その1年後には入局するこ
とになり、麻酔科に在籍し
ました。大学在籍は数年間
で、昭和47年には新設され
た千葉県がんセンターに就
職しました。昭和52年に米

定年の2年前という有様で
す。円滑に業務を行うには
1講座の麻酔科が望ましい
と考えていました。平成13
年に講座名を救急医学に変
更しましたが、これは教室
員に多大な心労をかけるこ
とになり、生涯忘れること
ができません。平成21年に
ドクターヘリ導入が内定し
たのを見届けて定年退職し
ました。

翌月からは徒歩5、6分
の距離にある社会医療法人
中山会宇都宮記念病院に名
誉院長として勤務しました。
この病院は51年前に千葉大
学第二外科のご尽力により
開設されたため、冠に「中
山会」が付いています。平
成20年に市街地の大通りに
新築移転しました。勤務当
初は宇都宮市の救急医療体
制を立て直すべく、前期高
齢者ではあるものの、研修
医の如く励みました。ここ
ろが平成24年からは、名譽
の取れた院長となり、現在
に至っています。目下の急
務は10年後に迫った病床再
編での急性期総合病院の実
現であります。

院や下都賀総合病院はむの
はな同窓会員が大半を占め
、獨協医大では稲葉憲之学長
(昭47)や福田健副学長(昭
48)をはじめ6名の教授が
活躍しています。今は休眠
状態かもしれませんが、宇
都宮のむのはな会や獨協の
はな会も毎年開催されてい
ました。同世代の集まりで
あるクラス会は和やかな雰
囲気のもとに開催されます
が、同窓会は年齢幅があり
、若い先生方には敬遠され
る傾向にあります。栃木県な
ら日光世界遺産など、医学
から離れた地元ならではの
講演なども企画すべきでし
ようか。多くの会員が出席
できる妙案がありましたら
是非ともご教授いただきた
くお願い申し上げます

人事異動

教授

予防医学センター

佐粧 隆久 (平元)

(整形外科学准教授より)

医療安全管理部

相馬 孝博

(榊原記念病院副院長より)

准教授

整形外科学

大鳥 精司 (平6)

(同講師より)

予防医学センター

櫻井 健一 (平4)

(君津中央病院より)

真菌医学研究センター

石和田稔彦 (平2)

(感染症管理治療部講師より)

講師

小児病態学

井上祐三朗 (平11)

(同助教より)

検査部

西村 基 (平11)

(同助教より)

食道・胃腸外科

大平 学 (平8)

(同助教より)

整形外科

落合 信靖 (平10)

(同助教より)

歯科・顎・口腔外科
笠松 厚志
(同助教より)

集中治療部

中田 孝明 (平11)

(大阪府救命救急センター
より)

総合診療部

大平 善之

(聖マリ医大・平12
(同助教より)

他大学教授

筑波大学

臨床腫瘍学

関根 郁夫 (平元)

(千葉県がんセンター呼吸
器内科部長より)

叙勲・褒章その他
祝事に関係された方
は是非同窓会事務局
までご一報下さい。
編集部でも絶えず注
意しておりますが、
ニュースに接し得な
い事態もあります。
お喜びはなるべく早
く、同窓の皆様にも
お分けしたいと思っ
ますのでよろしくお
願い申し上げます。

設計・監理

株式会社 地区計画コンサルタンツ

埼玉県さいたま市大宮区大成町1-84-2 地区コン大宮ビル

TEL 048-767-8580



最終講義

基礎研究医として不整脈研究に

取り組んだ37年間を振り返って

薬理学 中 谷 晴 昭 (北大・昭49)



不整脈に興味を持ったのは、国家公務員共済組合連合会斗南病院で循環器内科医として働いていた時でした。特発性心筋症で突然死に至り、ある日から外来に現れなくなった患者さんや入院中に頻脈発作が起り、抗不整脈薬による治療を行ったにもかかわらず心室細動に陥って亡くなった患者さんを目の当たりにし、何とか不整脈死を予防できないものかと考えたのがきっかけです。その後、縁があつて新設の北海道大学医学部薬理学第2講座に助手として採用され、私の基礎研究医としての研究生活が始まりました。当時、その新設講座は「臨床薬理学的な教育研究を行う」という目的もあつたため、教授も快

く、臨床の場面から派生した不整脈という研究テーマの続行を許可して下さい、結果的に今日まで心臓電気生理という分野の研究を続けることが出来たと思っております。学位取得後、米国に留学し、帰国後も電気生理学的研究を続け、講師、助教授と昇任して、生涯、基礎医学者として教育・研究を続けていく覚悟もできました。北海道大学において、パッチクランプ法を用いた心臓電気生理学的研究を中心とした機能研究を14年間続け、幸運なことに、平成4年、伝統ある千葉大学医学部薬理学教室の5代目の教授に就任させて頂きました。それから23年間、の

の研究・教育について振り返ってみたいと思います。過去30年の不整脈治療の変遷を見ますと、いくつかの臨床研究により、大きな変革が余儀なくされたことに気づきます。その一つは、1991年に発表されたCASTであり、陳旧性心筋梗塞に併発する心室期外収縮のI群抗不整脈薬(Naチャンネル遮断薬)による治療は生命予後を悪化させるという、私達薬理学者や循環器内科医にとつて極めてショックな報告です。それまでは、ホルター心電計で検出される心室期外収縮の数の減少を目標に次々と強力なNaチャンネル遮断薬が開発されてきました。しかしながら、陳旧性心筋梗塞患者に認められる心室不整脈をフレカイニドのような強力なIc群抗不整脈薬で治療すると、むしろ患者の生命予後を悪化させたという報告です。それ以来、やみ

くもに心室不整脈をI群抗不整脈薬で治療することは避けられ、重症心室不整脈にはアミオダロンといったIII群抗不整脈薬が使用されるようになりました。私も研究開発に携わったK⁺チャネル遮断薬のニフェカランが本邦で使用可能となり、除細動抵抗性の心室細動患者の救命に役立っています。もちろん、薬物治療は救命率という観点では植え込み型除細動器に勝るものではありません。先天性QT延長症候群やブルガド症候群といった、突然死につながる多くの遺伝性不整脈の病因が明らかになりつつある現在、薬物療法を選択するのか、あるいは植え込み型除細動器による非薬物療法に踏み切るのか、決断しなければならぬ状況は多いと思っております。

もうひとつの今日治療対象となる不整脈は心房細動であり、近年、国民の高齢化によつて心房細動罹患者が多くなつております。心房細動はすぐさま致命的となる不整脈ではありませんが、長嶋監督のように脳梗塞を併発する可能性があるので、その治療はQOL維持の点でも重要となります。心房細動の治療には、心房細動を停止させて洞調律に戻すリズムコントロールと、心房細動はそのままにして心室の興奮頻度を減少させるレートコントロールという二つの治療法が存在しますが、2002年に発表されたAFFIRMと呼ばれる臨床研究によつて、どちらの治療法によつても生命予後には差がないことが明らかとなりました。その結果、心房細動を治療するよりはその発生を予防する方向の治療に重点が移りつつあります。ここでも、肺静脈系からの異所性自動能がその発生の引き金になることが明らかとなつて以来、カテーテルアブレーションによる肺静脈隔離術という非薬物療法が積極的に行われつつあり、薬物療法としては心房細動予防薬の開発に焦点が移りつつあります。

心筋細胞にはATP感受性K⁺チャネルが存在することが古くから知られています。このK⁺チャネルは膜β細胞に存在し、インスリン分泌に深くかわり、スルホニル尿素系の血糖降下薬はこのチャネルを標的にする薬物です。母校の神戸大学に戻られた清野進教授が千葉大学在籍中にこのK⁺チャネルの分子構造を世界に先駆けて明らかにし、本学の三木隆司教授がこのK⁺チャネルの2種類のポア成分

遺伝子Kir6.1/Kir6.2の欠損マウスを作成しました。私達はこれらのマウスを使った機能実験を行い、Kir6.2をポア成分とするATP感受性K⁺チャネルは心筋虚血などの際の心筋保護に重要な働きをすること、Kir6.1をポア成分とするATP感受性K⁺チャネルは血管機能に重要であり、この失調は異型狭心症の発症につながることを明らかにしました。23年前の夏、北海道大学から千葉大学に赴任したことが昨日のように思い出されます。それ以来、先輩の諸先生方、教授会の先生方、大学院生を含めた教室員の皆様のご協力を頂き、何とか無事に教授職を務め終えることが出来ました。千葉大学医学部の教員の先生方、そして学内外ののほな同窓会の先生方に厚くお礼申し上げます。教育面では非常に優秀な千葉大学医学部の学生に対して、薬理学の講義を通じて「治療学の本質」を教えることが出来たことは本当に幸せであつたと思っております。将来にわたつて、本学の優秀な卒業生が日本の医療界の様々な分野において大きな役割を果たすことを期待しておりますし、それを信じて疑いません。また、研究面では多くの臨床系教室のご協力で、優秀な大学院生を送りいただき、一緒に研究に打ち込むことが出来ました。おかげ様で、それなりの研究成果をあげることが出来たのではないかと考えております。徳久剛史先生の後を受けて、医学研究院長・医学部長を4年間務めさせて頂きましたが、その間に、将来構想検討委員会を立ち上げ、若手の教授会メンバーに医学研究院の将来構想を考えて頂き、外部評価を経て組織改革を行いました。また、2011年の東日本大震災の際に、卒業式等の公式の行事が次々と中止になるといふ混乱の中で、千葉大学の中で唯一、後期の個別試験を強行し優秀な学生を選抜したことは、今でも間違っていないかと思っております。このように、様々な出来事がありました。大過なく医学研究院長・医学部長を務めることが出来たことも、多くの教職員のご協力のおかげと深く感謝致しております。

現在、徳久剛史学長のもと企画担当理事として本部で大学管理運営を手伝わせて頂いておりますが、その仕事はまだ続きます。西千

葉の本部に居て実感することとは、千葉大学はやはり医学研究院・附属病院の優秀な先生方が主体となって支えてくれているという事実です。今後、日本の18歳人口が減り続けますので、国立大学法人を取り巻く環境はますます厳しくなると思います。しかしながら、それ

をピンチではなく、チャンスとしてとらえ、医学研究院・附属病院の先生方が教育・研究・診療に励めば、間違いなく千葉大学の将来は明るいものになると思っております。

最後に、23年間の長きにわたって私を支えて下さった教職員の皆様、私と苦楽

を共にしてくれた教室員、大学院生の皆様、そして将来を嘱望される優秀な医学部の学生諸君に心より感謝申し上げますと共に、千葉大学医学研究院・附属病院のますますの発展を祈念して、稿を終わりたいと思います。

精子と卵子の出会いのために —基礎研究から生殖医療応用への挑戦—

生殖生物学・組織学 年 森 清 隆 (熊本大・昭50)



はじめに

2003年に千葉大学医学部組織学教授として選任され、定年までの12年間を過ごした。1975年熊本大学医学部を卒業してすぐに宮崎医科大学の教官/教員生活を始めて28年間(教授として10年) 従事し、千葉大学へ異動した。千葉大学では、組織学講義と実習に携わり、組織細胞学と生殖生物学に関する研究を行った。最終講義では研究を開始してから定年を迎

えるまでの40年間のおもな研究と教育について話した。

Truth is Beauty からの進展

研究を始めた1975年頃は、形態学では電子顕微鏡(電顕)を用いた研究が盛んであった。各種組織を構成する細胞に関する美しい電顕像が学会で発表されていた。その時代のキャッチフレーズとして、"Truth is Beauty" (John Keats, 1795-1821) がよく使われた。私も精巧な造形美を作る自然の力に感嘆していた一人であり、当時研究していた精子に関する構造や受精現象の形態学上美しい画像を得求めた。良い形態像を得るためには良い固定法が重要

であること、微細構造レベルでの分子局在を特定するためには抗原性を保持した免疫電顕法が重要であることが分かっていった。1983年末、宮崎医科大学で発見された心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)・カルペリチド・商品名ハンブ(HANP)の産生細胞の同定を依頼された。そのためには免疫電顕法が必要であった。私は1984年春に留学したため、研究を開始した弟がTambouin固定法を改良して、細胞を同定できることを突き止めた。私はNIHで開始していた精子単クローン抗体の作成と応用の経験を伝えた。1986年に帰国後、心房筋

細胞特殊顆粒がANP産生構造の本態であることを世界で初めて報告した。この経験が1980年後半から1990年代初めにかけて行った単クローン抗体を応用した精子学と受精研究に役立ち、続いて分子レベルの研究や遺伝子改変動物への研究へとつながった。

技術革新

1990年頃から、遺伝子改変技術が普及し始め、多くの遺伝子機能が多方面で特定された。これに拍車をかけたのが緑色蛍光タンパク質GFP遺伝子導入技術の発見であり、コンピュータハードの進化と共に、デジタル化による蛍光画像取得やその解析が早く正確になった。カラー画像取得やライブ画像解析が大いに進んだ。しかし、銀塩フィルムでの解像度には及ばなかったため、電顕画像デジタル化はやや遅れた。私の研究グループは、電顕レベルを含めた構造と機能に関する基礎研究を基本としていたが、千葉大学に異動する前に、遺伝子欠損(KO)マウスやGFPを導入した遺伝子改変(Tg)マウスを用いた共同研究が進んでいた。異動後は、進化してきた技術を積極的に取り入れた。

作成していた単クローン抗体が認識する機能タンパク質のうち、ヒト精子にも存在するものについては、生殖医療を経験していた伊藤千鶴博士(現講師)を中心に研究を進めた。特にMN6抗体が特異的に認識するEquatorin (EQTN)とMN3抗体が認識する卵活性化関連因子MN3分子は精子の質の診断に有用であった。

生殖医療の発展

1978年、体外受精(IVF)・in vitro Fertilization (IVF) ベビー誕生が報告され、次第に世界中に広まった。そして1992年、卵子内精子注入法IntraCytoplasmic Sperm Injection (ICSI) (一個の精子を卵子により移植する技術)が開発されると、瞬く間に世界中に普及した。新しい排卵誘発法、採卵法そして卵/胚の培養法等の開発と相まって、生殖補助医療Assisted Reproductive Art (ART) が確立していった。生殖補助医療に必要な情報は、私達の得た基礎研究とも合致した。

精子の構造と機能

父母のゲノムは、配偶子形成の減数分裂過程を経て、それぞれ精子と卵子の核に

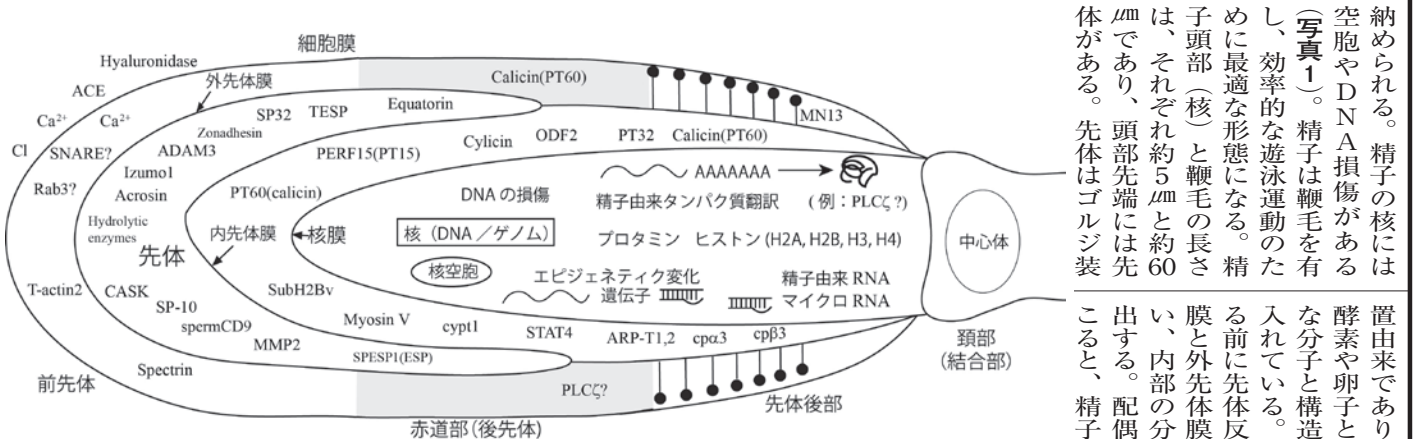


写真1: 精子頭部の機能ドメインに局在する分子。これらの分子が受精過程で変化し、卵を活性化させる。ここに至る過程が失敗すれば、不妊につながる。年森清隆, 伊藤千鶴. 医学のあゆみ, 2014;249:31-37. 図3を改変。

納められる。精子の核には空胞やDNA損傷がある(写真1)。精子は鞭毛を有し、効率的な遊泳運動のために最適な形態になる。精子頭部(核)と鞭毛の長さは、それぞれ約5μmと約60μmであり、頭部先端には先体がある。先体はゴルジ装置由来であり、多数の分解酵素や卵子との融合に必要な分子と構造タンパク質を入れてある。卵子に進入する前に先体反応(精子細胞膜と外先体膜の融合)を行い、内部の分子を外部に放出する。配偶子膜融合が起こると、精子は、減数分裂

を停止して長い眠りにある卵子を覚醒させるための分子(活性化因子)を機能させ、父母のゲノム合体のために働らく微小管形成中心となる星状体を形成する。そのため、成熟精子は複雑な構造と機能分子を配備し、受精過程で機能発現する(写真1)。

精子と卵子の出会いのために

生殖医療研究の背景は、ARTを必要とする不妊症カップルが増えていることである。不妊症はカップルの10~15%程度で起こり、ART出生児は40人に1人程度である。最近では女性の高齢出産(36歳以上)が増え、女性のライフスタイルの変化と関わっている。不妊症の原因は、解析が進んだ現在、女性側と男性側がほぼ同数に近づきつつある。精子形成過程で働く遺伝子に異常があると、精子数が減少し(無精子症、乏精子症)、精子形態がおかしくなる(奇形精子症)。これらの原因を探るため、精子形成に関わる遺伝子KOマウスを解析し多くの成果を得た。またKOマウスやTgマウスを作成して解析を進めた。卵子は精子を受け入れて体細胞に戻り、胚発生を経て

胎児を生育する。そのために特化した大きな細胞質を持つ(核の大きさ約20μm、細胞の直径約100μm)。私達は卵子と精子との相互作用の観点から受精メカニズムの解析を行い、配偶子融合から初期胚発生のライブ画像を解析した。これらのマウスを用いた基礎研究の見解は、ヒト不妊症の診断や治療の参考となり、千葉大学ベンチャービジネスラボラトリ(VBL)プロジェクトとして採用され研究を行った。ICSIのため質の良い精子を鑑別するために、精子形成とMNG9抗体やMNG3抗体を併用した解析を行い、核の断片化の計測法について解析した。配偶子のエピジェネティック epigenetic 状態を診断することも重要であったが、今後の課題として残った。

今日私は3つのテーマでお話をします。1 医療情報学について、2 超高齢社会の医療について、3 若い学生諸君へ送る経験談です。

1 医療情報学が医生物学を造る

病院の情報システムのインフラを構築することを目的として1976年に日本の医学部の中で最も古い医療情報部のひとつが本学に作られました。その後5年毎のリプレースを行い、検体検査、処方箋、放射線などの画像の情報が順次蓄積され、2004年から部分的に始まった電子カルテも

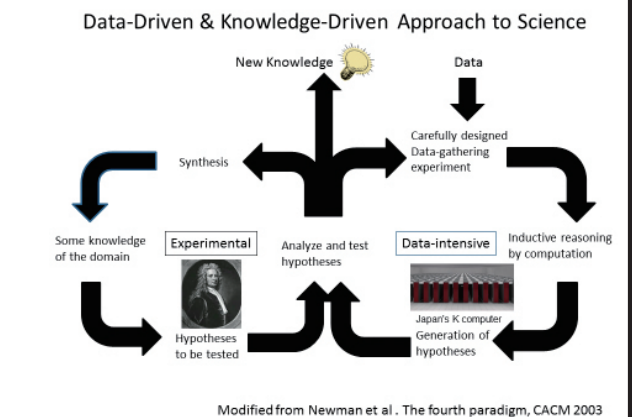
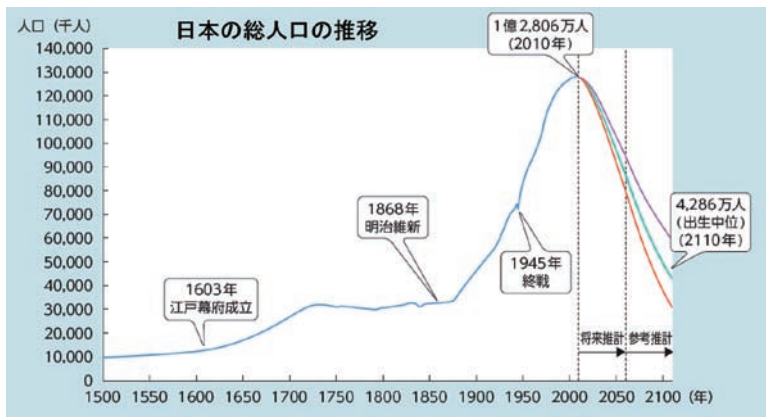


Neil's Physiology of Reproduction, 4th ed (第3章 The Spermatozoon, 担当) が上梓された。世界中の学生や研究者が手にする生物学の聖書といわれる最新の総説本である。留学時代の恩師 Edward, EM博士

と共に執筆できたことが最高の幸せとなった。これまで、教育と研究をご支援して頂いた全ての千葉大学関係者や同窓の諸先生方への感謝の念で一杯である。

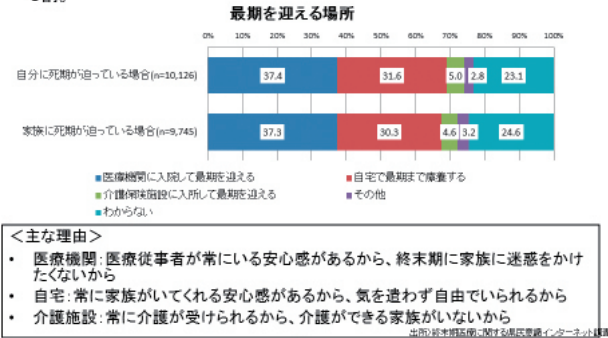
医療情報学 高林 克己(昭50)

2014年にはすべての診療科で完成し、今後の記録はほとんどがペーパーレスで入力される時代になりました。ある意味で医療情報部の当初の目的は達成されたわけですが、今度は次なる新たな考えが出てきました。それがEHR (electronic health record) で、地域の医療施設間の医療情報を電子的に繋ごうとするものです。実は欧米ではむしろ病院内の電子化よりも電子紹介状などの地域連携が先行していました。現在完璧な相互運用性(他院のデータを同じ電子カルテシステムのように運用)を実現しようとする大変コストがかかりますが、いずれ将来はすべての電子情報はつながるものと考えています。これにより個人のすべての健



あなたは最期を迎える場所にどこを選びますか？

■「自分に死期が迫っている場合」「家族に死期が迫っている場合」とともに「医療機関に入院して最期を迎える」が約3割、「自宅で最期まで療養する」が約3割。



らせ、新たな発見ができる潜在能力を有しています。今までは考えもしなかった膨大なデータを作り出し、それをデータマイニングすることで、いままでは一部の偉人たちの偶然的発見によって見つかった仮説が自動創出され、医学生物学が目の前でつなぎあつていくようになる、そうした編み、紡ぐ作用を今後の医療情報学に期待できるのです。

2 超高齢社会と医療パラダイムシフト

日本の人口は死亡数が出生数より多くなり、人口は減りつつあります。日本の人口は明治維新の3000万人から終戦直後には70

00万人、そしてそれからわずか60年で1億3000万とほぼ倍になりました。今後の減少数はこれと線対称に減っていくという事実。私はたちが今まさにジェットコースターの頂点から一気に下るところにいます。同じです。このために主に郡部では人口減少のために限界集落が多数発生します。彼らにとつて最も重要なのはそこに医療施設が存在するか否かです。

また超高齢社会とは65歳以上の高齢者の占める人口が21%を超える社会ですが、すでに日本は25%を超え、2040年前後に最大36%を超えることが予測されて

幸せを感じる人は長生きする

Psychology. Happy people live longer. Science 2011 4:331(6017):542-3.



います。このような急速な高齢化が進んだ国は有史以来ありません。我々はこれから人類未経験の急速高齢化の世界を体験するのです。またこの現象は特に都会において爆発的な高齢者の増加とそれに伴う入院患者の増加を招きます。すなわち都会での受診や入院を難しくします。そしてこれは団地において極端な傾向をとります。このように地方は医療者を獲得できずに限界集落として消滅していき、一方都会は高齢者の絶対数の増加で入院施設、医療者が足りないという状況が生まれることが予測されます。このような状態を切り抜け

るためには、今までの医療の延長線上には解はありません。今までと異なった医療のパラダイムが必要です。私たち超高齢社会研究センターでまともな政策、救急の低下のための政策、在宅看取りへのシフト、高齢者の医療者による高齢者診療などでした。在宅医療の普及は急務であり、その素晴らしさについて、もっと病院勤務医が理解しなければいけないと思います。さらに重要なことは、人は誰も死を避けられないこと、医師はそれに目を背けないこと、高齢者にとつての最期はどのようなものである

私の歩んだ道

—新しき検査診断学を求めて

分子病態解析学 野村文夫 (昭50)



(1) 卒業から病院検査部署に
1975年3月に千葉大学医学部を卒業し、恩師奥田邦雄先生が主宰される第一内科に入局した。奥田先生の偉大さは私自身が年を

3 若い学生諸君へ

学生に送る言葉として、いくつかの話をします。我々は我々以前の偉人たちが作り上げた科学という巨人の肩に乗った小人である

こと、研究者は人の結果などを信じてはならない、自分が正しいと思うことであると、一方臨床医は常に自分が間違っているものだと考えなければいけないという話を話しました。教科書は確かに今までの蓄積を述べてはいるが、しかしそこではなんとなくあまいな部分こそまさにこれから新たに開かれる世界であるということです。

また私は患者さんの希望を聞いて海外ツアーを始めましたが、逆にそこで私が患者さんから教えられたことがたくさんあります。勸

められないことなのですが、もし機会があれば皆さんも一度は患者の立場を経験したほうがよいと思います。健康人が病人をみても患者の真の気持ちはなかなか理解できないでしょうから。最後にダーウィンの言葉として、最強の種が生き残るのではない、最も賢い種でもない、変化に対応できる種のみが生き残れるのだという言葉を伝えたいと思います。これは何も種だけの問題ではなく、組織なども同様であると思います。

経るにしたがってますます実感している。学内外の内科研修を経て渡米し、ニューヨークのDr. Charles S. Lieber教授のもとで約4年間にわたりアルコール代謝・アルコール性肝障害の研究に従事した。留学先の前任者である大西久仁彦先生には現在に至るまで公私ともに多大なご指導をいただいている。また、留学前に橋正道教授が主宰される

第二生化学教室において実験のほどきを受けて以後、同教室には長きにわたりお世話になってきた。帰国後は第一内科で肝疾患の診療と研究に従事していたが、教授選を経て教室の体制と教室内での私の立場が大きく変化し、比較的自由になる時間を作ることができたので、三井物産本社ビルで開催される関東トーストマスターズクラブに2年間通

表1 研究推進において検査部が恵まれている点

- 1.臨床検体を介して各診療科と連携しやすい
- 2.解析技術に関する内外の最新情報を入手しやすい
- 3.スタッフに技術的な基盤があり、新たな専門の手技を習得しやすい
- 4.研究成果の実用化に際してパートナーを得やすい

たことを知りわずかな縁を頼ってその門を叩いたのである。その結果、臨床検査医学を本格的に志し、現在の私があるのも、人とのちよつとした出会いに本当に大切だと思

同様に考える。表1に示すように病院検査部は研究を遂行するにあたって多くの恵まれた点を有しているが、継続的に研究が可能な体制を作り上げるためにはまず人材育成が重要と考えた。そこで当講座ではほぼ毎年1〜2名社会人大学院生として検査技師を受け入れ続けた結果、現時点(2015年3月)で14名が博士課程を、17名が修士課程を修了している

発現しているすべての蛋白質を意味するプロテオームの解析は2002年にノベル化学賞を受賞された田中耕一氏、J.P.Fenn氏によるソフトイオン化法による蛋白質の質量分析が可能となったことなどを契機に、大きく進歩した。講座・検査部・疾患プロテオミクスセンターの研究チームでは、臨床材料(血清をはじめとする各種体液および病理組織)を用いた疾患プロテオミクスによるバイオマーカー探索を重要なテーマの一つとしてきた。バイオマーカー探索を単なる研究で終わらせることなく、実用化につなげたいと考え、附属病院に疾患プロテオミクス寄付研究部門(日東紡メデ

イカル)を設置していただき、9年間にわたり共同研究を推進した。その結果、骨吸収マーカーである「TRACP」が保険収載項目として世に出たが、現在新たな肝疾患マーカーの体外診断薬承認を申請中である。②遺伝子診療部門の構築 検査部の教員が主体となる診療部門を持つことは、検査部の臨床研究推進のために有効であると同時に、後期研修医を募集する際のセールスポイントにもなる。千葉大病院では教員のバックグラウンドを活かして遺伝子診療部門を立ち上げる

こととした。2000年1月に検査部遺伝子検査室を新設することからスタートし、2003年4月には検査部内に遺伝カウンスリングを設置した。当初は主に遺伝性神経・筋疾患の遺伝学的検査前後の遺伝カウンスリングを担当していたが、その後院内の関連診療科(神経内科、産科、小児科、泌尿器科など)および公衆衛生学の羽田明教授、石井拓磨先生のご協力を得て、2008年2月には遺伝子診療部として独立した。

表2 質量分析技術の臨床検査応用

- LC-MS/MS (ESI/APCI)
 - ◆先天代謝異常のスクリーニング
 - ◆法中毒分析, TDM
 - ◆臨床化学
 - ステロイドホルモン, ビタミンD
 - 脂質, 蛋白質・ペプチド,
 - ◆DNA-freeの遺伝子型タイプピング
- MALDI-TOF MS
 - ◆細菌・真菌の迅速同定
 - ◆質量分析イメージング

い、native speaker)による英語のスピーチの本格的トレーニングを受ける機会に恵まれた。また、新たな研究手法を学びたいと考え、第2微生物学教室(現病原分子制御学)の野田公俊教授のラボでADP-リボソル化を初めとする蛋白質の翻訳後修飾について勉強する機会を得た。ピンチをチャンスに変えることの醍醐味をこの折に学んだ。その後、さらに活路を見出すべく筑波大学に転出した。はるか昔の内科の初期研修で一年間過ごしたキックマン総合病院(当時の病院長は福永和雄先生)で知り合いとなった中井昭昭先生(東大病院から月一回アルバイト医として来られていた)が筑波大学の教授に就任され

1999年10月に母校の教授を拜命した。私の前任の米満博教授が臨床検査医学講座化、検査のオーダリングなどをすでになされていたので、私は着任後先ず、検体検査の日当直体制の立ち上げと外来患者の診察前の検査報告の徹底に取り組んだ。検査部としての本務を十二分に果たした上で特色を出したいと考えたからである。

①検査部医師・臨床検査技師が一体となった基礎・臨床研究の推進 大学病院の内科、外科を初めとする各診療科にはハイレベルの診療を行うことに加えて、良質の学術研究成果を産出し続けることが求められる。この点は中央診療部門の検査部の場合も

骨吸収マーカーである「TRACP」が保険収載項目として世に出たが、現在新たな肝疾患マーカーの体外診断薬承認を申請中である。②遺伝子診療部門の構築 検査部の教員が主体となる診療部門を持つことは、検査部の臨床研究推進のために有効であると同時に、後期研修医を募集する際のセールスポイントにもなる。千葉大病院では教員のバックグラウンドを活かして遺伝子診療部門を立ち上げる

こととした。2000年1月に検査部遺伝子検査室を新設することからスタートし、2003年4月には検査部内に遺伝カウンスリングを設置した。当初は主に遺伝性神経・筋疾患の遺伝学的検査前後の遺伝カウンスリングを担当していたが、その後院内の関連診療科(神経内科、産科、小児科、泌尿器科など)および公衆衛生学の羽田明教授、石井拓磨先生のご協力を得て、2008年2月には遺伝子診療部として独立した。

遺伝子診療部長は検査部長が兼任し、部長を含めた検査部の教員計4名は全員臨床遺伝専門医を取得している。また、検査部遺伝子検査室と連携して、脊髄小脳変性症の包括的診断や家族性腫瘍、遺伝性不整脈などの発症前診断に取り組んでいる。近年は新型出生前診断に関連したケースが急増している。2014年12月の時点で遺伝子診療部の全症例数は1069例となっている。

表2 質量分析技術の臨床検査応用

- ③検査結果をみて次の検査を提案できる検査部になること 検査のプロとして検査結果をみて次に行うべき検査を検査部側から診療側に提案することも重要と考え、関連診療科と連携していくつかの取り組みを行っている。一例をあげる。強力な免疫抑制などに伴うB型肝炎ウイルスの再活性化による劇症肝炎が問題となっている。そこで化学療法HBVセットと呼ぶ新たなセット検査項目を用意し、検査結果を検査部で確認して再活性化のリスクがある患者をピックアップして必要に応じてHBV-DNAを検査するという流れを2013年6月からスタートさせた。これまでに数例のHBV-DNA陽性例を早期予防的治療につなげることができている
- (3)今後の展望 質量分析技術の臨床検査への応用ー臨床検査分野で質量分析

ばらくこの分野の進歩に少ななりとも貢献できればと願っている。このたび私が無事定年を迎えられたのはこれまでご指導いただいた多くの先生方、諸先輩方、そして朝長毅前准教授、松下一之現准教授をはじめとする千葉大学大学院医学研究分子病態解析学の皆さん、澤部祐司技師長、糸賀栄副技師長、清宮正徳副技師長をはじめとする千葉大学病院検査部の皆さん、宇津野恵美遺伝カウンスラーをはじめとする遺伝子診療部の皆さん、佐藤守助教をはじめとする千葉大学医学部附属病院疾患プロテオミクス寄付研究部門の皆さん方のおかげと心より感謝申し上げます。

特別寄稿

頸髄損傷歴

50年

松戸整形外科病院

名誉院長 藤塚光慶(昭43)

頸髄損傷による四肢麻痺となつて50年経過した、黒山宏志君(本来・昭和45年卒)が本年1月に亡くなりましたのでご報告いたします。

彼と私の対談が「たまにはのんびり話そうか」のタイトルで「月刊新松戸」というミニコミ誌に平成24年10月号から1年半にわたり掲載され、その中で「そろそろ死について準備しようか」など語りました。彼が海での事故で障害者になったのは、彼が20歳、私が22歳のときで、その後長い付き合いでしたが、まとまった話をしたことはなく、この機会に彼が「この世に存在した証」を残しておくのに良い機会と思いました。

彼を起こし、数人で浜へ出かけました。私は20mくらいの沖合、膝の深さで、新入生の女性たちが溺れないように沖を監視していたところ、後ろから「黒山さんが溺れている！」という声を聞き、振り向くと彼が浅瀬でうつぶせになって浮いているのが見えました。いつもひょうきん者なので、「またふざけているな」と思いましたが、なかなか起き上がりません。駆け寄って抱き起こしたところ、「手足が動かない」と言います。すぐに、数人で近くにある、武内病院まで運んだところ、「首の骨が折れて脊髄が損傷されている、すぐ大学病院へ連れて行きなさい」とのこと。彼が医学部3年(学部1年、当時は学1といつた)、私は5年生(学3)で、まだ事の重大さがよくわかりません。勝山には千葉市まで行ってくれる救急車はなく、木更津の自衛隊に電話して頼んだところ、しばらくして「残念だがヘリを着陸させる場所がない」と言われました。あちこち

を探したところ、隣の岩井町に個人で救急車を持っている医師が早く引き受けてくれました。夜10時ごろ、千葉大学病院、整形外科に到着すると、鈴木次郎教授をはじめ多くの医師が待つてくれていました。すぐにレントゲンなどの検査をして、第5頸椎脱臼骨折、頸髄損傷として手術が行われました。椎弓切除をして、脊髄を見たところ、完全に断裂しており、四肢麻痺は回復不能のことでした。彼の両親(父親は岡山で泌尿器科医師)は彼が5才の頃相次いで亡くなって、二人の兄がいるだけで、気管切開をして、頭蓋直達けん引をしてあるので、誰かが24時間付き添いしていなければなりません。二人の兄たちはまだ若く、神奈川の兄は、仕事があるので付き添いできません。そこで仲間と相談して、卓球部員、彼の同級生を募り、数十名のチームを組み、24時間交代制で付き添いが始まり。皆、まだ学

生でしたので医学的な知識は少なく、気管チューブにお茶を入れて呼吸困難にさせたり、殿部の大きな褥創を見て失神したりしました。皆気持ちよく、交代制をしてくれました。この介護体制は、同級生が卒業するまで3年あまり続きましたが、このころ迄は、右手がちよっとピクッと動いたとい、まだ学生復帰の希望を捨てず、生理学、解剖学の勉強をしていました。当時、昭和38年卒の尾崎賢太郎先生(柏市開業)、玉置哲也先生(和歌山県立医大名誉教授)、松井宣夫先生(名古屋市立大名誉教授)が入局したばかりで、毎日お世話になっていました。昭和43年1月、鈴木次郎教授が東京駅で急逝された後、教授になられた井上駿一先生から、黒山君も、合併症に気をつければ普通の人と同じ寿命を送れるよ」と言われ、「彼を一生面倒見るしかないな」と思いました。そのころは、褥創は「出来ても仕方ない」という雰囲気、対策として、「回転ベッド」が使われました。これは幅60センチ位のサンドイッチ状のベッドで身体を挟み、ベルトで固定し、ハンドルをグルッと回して上下を逆転させるものでした

が、肋間筋麻痺で胸式呼吸が出来ず、横隔膜のみによる腹式呼吸しかできない彼は呼吸が苦しかったようです。何回か褥創への皮膚移植などの手術を受けましたが、昭和45年に千葉市内の斎藤労災病院へ移り、高圧酸素タンクの治療が始まりました。当時、家内(小児科、万里子)と病院の近くに住んでいて時々顔を見に行き、当時流行り始めていたカラーテレビを買ってあげたので、皆で楽しんで、電動車いすで千葉市内を散歩に連れ出したりして気分転換をしました。また、卓球部からも、その後数年間、かなりの補助をいただいていたようです。私は昭和43年に卒業しましたが、医学部紛争もあり、大病院での研修が始まったのは昭和45年1月で、当然のように、整形外科教室に入り。その後、船橋中央病院、千葉市立病院での勤務、再び大病院勤務を経て、昭和51年に松戸市立病院に就職しました。当時、診療局長の故篠原寛休先生(群大・昭和35、千葉大整形入局)が、松戸市立病院への転院を許可してくれたので、やっと彼を手元に置くことができました。私が彼から離れていた間は、

Aさんというプロの家政婦さんが付き添いとして、彼の母親代わりになっていましたので、時折顔を見に行く程度でしたが、彼女も松戸に住まいを移し、昭和59年に亡くなるまで15年間も面倒を見てくれました。松戸市立病院に転院してからは、当時、足の骨折で入院していたアメリカ人のビルワイズから医師数人とともに英会話を習いました。彼はかなり上達が早く驚きました。また私どもが近いので、シドニーの家が近いので、シドニーから我が家にホームステイしていたメリッサの送別会



昭和63年9月 我が家でのパーティー シドニーからホームステイしていたメリッサ(20歳)の送別会 後列左端 藤塚光慶、2列目左端 万里子

れ、旅行にも一緒について来てくれました。松戸整形ではベッドの上に装着したクレーンのような装置とハンモックを使って、車椅子への移動が看護婦さん一人でも可能になりました。またパソコンも導入されたので、マニュアル本を見ながら悪戦苦闘しましたが、インターネットを見たり、電子メールもこなすようになっていました。また右手に装具を着けて、セットされた食事をほぼ独力で食べることが出来るようになり、家政婦の付き添いは不用になりました。

平成7年、腎臓結石の手術のために松戸市立病院泌尿器科に移りましたが、手術の当日の早朝、看護婦さんから「黒山さんがすぐ来てくれないかと言っています」との電話があり、すぐに駆けつけたところ「もう終わりにしたいので、麻酔を覚まさないでほしい」と言うのです。今まで愚痴一つ言わなかった彼が言うので、しばし絶句しましたが、「麻酔の先生に頼もうか」と答えました。手術が終わって病室で「あれ！麻酔が覚めてしまったね」と言いましたら「変な事を言ってますみません」と元の彼に戻っていました。この入院中に

地下鉄サリン事件が起こったと彼のメモに残されています。平成10年に糖尿病を合併し、食べ物を制限しなくてはならず、「楽しみが減ってしまった」というので、「本でも読んで気を紛らわせたら」と読書を勧めたところ、ボランティアの男性と車椅子で本屋に行ったり、途中でパチンコを楽しむようになりました。二人のボランティアがいて、一人は千葉大学に入学した時に、文学部などが所有していた、習志野の「無名寮」が空いていたので入居した時に同じ部屋に同居していた菅原さんで、もう一人は松戸市のボランティアセンターに所属していた有川さんという男性です。

年勤め、最後の7年間は病院長として、病院経営の困難さはよく理解していたので、両先生には本当に頭が下がる思いでした。腎臓摘出後に糖尿病が劇的に改善したのにも驚きました。やはり感染症が合併しているとう糖尿病も悪化するので、

平成13年と15年に両目の白内障を市立病院眼科で手術しましたが、平成14年には腎周囲膿瘍で千葉労災泌尿器科に転院、昭和50年卒、卓球部の柳重行先生に右腎摘出術をしていただきました。このように、彼が別の病院に転院している間も、松戸整形外科の個室は空けたままで、彼が戻ってくるのを待っていていましたので「いつも安心して」と住吉、黒田両先生にはとても感謝していました。私は松戸市立病院に足掛け38

頸髄損傷では自律神経が機能不全を生じるのか、体温調節が出来ず、気温の変化についていけないよう、暑さ寒さにとっても弱い状態でした。そこで春、秋で彼の体調が良い時に車いすごとワゴン車(隣の松戸神経内科、北野邦孝先生(昭46)から借用)に乗せて、遠くは日光、那須などへ一泊旅行に家内や友人たちと連れ出しました。旅館の大浴場に男4人で運び、洗い場に寝かせて、身体を洗っているとお客さんが見に来たので「こう見えてもこのお方はわが社の社長です。ねえ社長？」という彼も「まあそんなものです」と調子を合わせていました。東京デイズニールランド、デイズニールなど近場を含めると40数回は連れ出しましたが、外食と看護婦さんに持ちかえるお土産買いが楽しかったようです。「自分は他の人に何もしてあげられないから」とちらっと言ったことがあります。旅に連れ出したり、あちこちの病院への転院などに運転をしてくれたのは、流山で燃料店を経営している秋元保寿、早苗夫妻で、親友である彼らの協力がなければとてもできませんでした。黒山君は「自分は何もできない」と言いましたが、彼の周囲にはたくさんの人たちが集まり、和やかな時間を共有出来たと思います。

子どもの時から学業成績が抜群で、両親が早世されていたのですが、特別奨学金を与えられ、「泌尿器科医であった父のようになりたい」と医師を目指して千葉大学医学部を受験しました。大好きだった母親を食道癌で亡くしたので、食道癌手術の権威として有名だった、第二外科の中山恒明教授のいる千葉大学を目指したのです。岡山から一人で千葉まで来て試験を受けましたが、試験の出来が良くなくて、発表を見に来るのが嫌だったのですが、思いがけず現役で合格しました。卓球部でも活躍、これから本格的に医学の勉強ができると張り切っていた時に起こった事故でした。

昭39年(1964年)に入学し、翌々年揃って専門課程(学1)に進級した年の夏休み、東日本医学生体育大会を目前に、卓球部は千葉大学の勝山寮での合宿に集合したが、その厳しい猛練習の前にと、海に向いて海水浴のさ中、勢いよく飛び込んだ黒山君は、不運にも頭を海底にぶつけ、頸椎を骨折した。一瞬の出来事であり、悔いても悔やみきれない不幸に襲われてしまった。

「不屈の精神」 黒山宏志君の思い出

あのはな同窓会副会長 清 陽 高 穂 (昭45)

体力の限界だったのでしょう、1月23日早朝に静かに息を引き取りました。冒頭の対談の中で「延命処置は望まない、自然死がいい」と言っていました。この通りに穏やかな最期だったと思えます。

お世話になった方々に連絡したところ、思いがけないことになり、このような文を書くことになりました。この場をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。

意識消失はなかったものの、両手、両足が麻痺し、直ちに地元の勝山町の武内病院(ご子息が千葉大学の同窓生)に連絡、頸髄損傷で大病院に救急搬送された。待ち構えていた鈴木次郎整形外科教授の執刀で、深夜の緊急手術となったが、当時の医療では全身麻痺の後遺症への対処は如何ともし難く、その後の50年に及ぶ障害の始まりとなった。

「黒山君が大変なことになる、卓球部だけでは手に負えない」ただちに同級生全員が集まり、24時間介護体制のために、当初は1日3交代制で、後には2人ペアで24時間、黒山君の病室付添を申し出て許可され、開始された。以後卒業までのおおよそ3年9か月間にわたり、男女の別なく正月も、あるいは学期試験期間中も各自当番制で、月1、2回の付添介護が続けられた。その他に、買い出し、洗濯、また週何回かの風呂、当番も手分けして行い、当時1学年85、6名で(私は出席番号が最後尾の86番、我々の学年には女子学生は8名だった)女の子たちはさすがに風呂当番だけは遠慮したが、黒山君が困ったことがあると直ちに自発的に出動した。これは彼に「少しでも不自由な思いをさせたくない」という心情が同級生の中に常に流れていたのだと思う。

国家試験から卒業の後、それぞれの進路に分かれて行き、かつてインターン闘争に端を発した学生紛争・全共闘などのあおりを受け、昭和45年3月の卒業時には母校に残らず東京その他への大学や病院へ進んだ者が約30名に上り、卒後研修の開始と共に、クラスとしての世話は終了を迎え、同時に千葉大学病院から斎藤労働病院へと転院して過ごすことになった。

しかしその後約45年の長きにわたり、卓球部の主将であった藤塚光慶先生と奥様の(旧姓・針ヶ谷)万里子先生および同級生で卓球部員であった黒田重史君、住吉徹是君などの人たちが、初めは斎藤労働病院、次いで松戸市立病院、最終的には昭和60年に共同開業した自分たちの松戸整形外科病院に入院させて、常に黒山君と共に過ごされたのである。なんと責任感の強い、また先輩としての愛情、同級・同倶楽部の友情の篤い人たちであろうか。まことに頭が下がる、いやそれどころで済まない、感動と感謝をこれらの人々に贈りたいものである。

黒山君の心情を思うと胸が張り裂けんばかりである。18歳で故郷の岡山県津山から

ら医師を目指して、勇躍千葉大学の医学部に進学し、20歳で事故に遭遇して全身不随となり、半世紀前での医薬では恩恵も殆ど叶わず、周囲の人々に世話になる一方であり、また友の活躍を眩しく見つめるだけの日々を余儀なくされたのである。

しかしその中で、たかだか2年あまりの同級の誼を大とし、その境遇をいたみつつ、青春の日々を友のために捧げた人々がいたことを誇りに思うのである。そして、人それぞれの境遇を理解し、おのれの出来得ることを精一杯実行し、何としても黒山君を守り通した人々にも増して、それらの人々の心情に添えて弱音を一切吐かず、ただひたすら感謝の気持ちを持ち続け、困難に決して屈することなく、50年の長い歳月を過ごした黒山君にも、同情と慰労の気持ちで一杯である。この上ない不運、それを物ともせずひたすら乗り越えるべく、友情を通わせ続けた一群の人々がわれわれ医学部同窓生にも居たことを記憶に留めていただきたく、この一文を認めたものです。

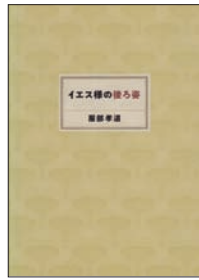
各位のご理解をお願いする次第です。

同窓会員著書の紹介

服部孝道(昭42) 著 イエス様の後ろ姿

メディカル・アート出版

鈴木 信夫(昭47)



何とも奥ゆかしいタイトルではありませんか。後ろ姿、なのです。顔などについて他者の著作物類はありませんが、なぜ「後ろ姿」か? せひ、本書を手に取り、「はじめに」をご覧ください!!

さて、著者の労には、ただただ感嘆の一言です。人間イエス様と生中およびその前後の時代背景を見極めたいと、綿密に調査をされた軌跡がうかがい知れるのです。微に入り細を穿つ論述と解説は、読者を飽きさせず、熟読玩味の世界に没頭させること確実なのです。

例えば、イエス様の職業をめぐめる議論です。船大工だったことも考えられるとした点は、なるほどと納得せざるを得ません。一方、

聖書に記載がないとする容姿について、非常に魅力的な容姿であったのではないかと想像させている点は、説得力満点です。その論述法は、著者が医師ならではのものでもあります。かくして、新約聖書などに基づく格調ある人間史とも言える怒涛の航海へと読者を導くのです。ただし、引用されてある聖書の文章やキリストの教えとする記述に目を走らせると、読む者の心は安らぎ、安眠の世界へと導かれること必定です。特記すべきことは、その引用されている文章が現代風に書かれており、平易に読むことができることです。

著者の服部孝道先生は、これまでに、太平洋戦争あるいは人類史を課題とする大著を編み出してきております(太平洋戦争に関わる著書は本会報159号で紹介されております)。そのよ

作業は、本書で最後とのこととす。未知のものを既知の世界へ導こうとする科学精神ののっぴり、純粹無垢な活動の最終作が本書のようです。

あまりにも惜しい。読む者を圧倒させる創造の大航海を終焉させないでほしい。

と願う次第です。ホテルの一部には、宿泊すると、新約聖書と共に仏教聖典も置かれ、読むことができます。愚禿の身からお願いです。空前絶後の大著作航海の筆を置かないでください。どうか、同窓諸氏に深淵なる人生を味わわせて下さい。

福田幾夫(昭54)、池内淳子、鶴飼卓 編 災害に強い病院であるために 被災者であり救済者でもある病院

医薬ジャーナル社 定価 四、八〇〇円(税抜)
福田 幾夫(昭54)



私は昭和48年千葉大学に入学しました。在学中は医学部バレーボール部に所属するとともに、山中寮委員として山梨県富士山7合目救護所の手伝いを行いました。昭和54年3月に千葉大学医学部卒業後、筑波大学附属病院外科レジデントとして入職し、故岩崎洋治教授(昭29)、故牧豊教授(昭24)をはじめ多くの同窓の先生からご指導をうけました。昭和55年8月に起こった富士山落石事故のとき、

医師として山梨県富士山7合目救護所に勤務しており、救護活動を行い、それ以来災害時の医療に興味を持っておりです。昭和56年筑波大学附属病院循環器外科シニア・レジデントとして堀原一教授に師事、昭和58年5月から1年間、国立循環器病センター心臓血管外科レジデントとして故中島伸之先生(昭36)(後の千葉大学第一外科教授)の指導を受けました。昭和60年1月より筑波科学博覧会の救急対応病院として開設された筑波メディカルセンター病院(中田義隆病院長(昭36))の心臓血管外科診療科長として勤務。平成13年12月弘前大学医学部外科学第一講

座教授。弘前大学医学部附属病院材料部長、病院長補佐、輸血部長、副病院長、手術部長などを歴任。第7回日独血管外科学会会長、第42回日本血管外科学会総会会長。2016年に第36回日本静脈学会主催予定。座右の銘は「医者はよるべき患者の友である」。

東日本大震災では八戸市、陸前高田市の静脈血栓塞栓症検診に弘前大学心臓血管外科のチームとして参加するとともに、日本静脈学会理事として静脈血栓塞栓症予防のための被災地への注意喚起、ストッキングの配布などに関与しました。同時に、東北地域の手術部長間でネットワークを立ち上げ、情報交換を行うとともに、手術室の被害状況をアンケート調査。この結果は第112回日本外科学会総会(宮崎勝会長(昭50))、世界災害医療学会で報告。災害時に病院自体が損害を受け、診療機能が大きく損なわれることを実感し、これを記録にとどめることが重要であると痛感。過去に遡り日本および海外での災害時の病院の被害を調査研究し、本書をまとめました。南海東南海地震や首都圏直下型地震だけでなく、温暖化による巨大台風など、我

が国では自然災害のリスクが高まっていると思います。災害時の備えとして本書を参考にしていただけると幸いです。

現在、「内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program: SIPP）」の課題「被災者のヘルスリテラシー向上を目的とした地域の医療

**亀井克彦(昭56) 編
目で見る真菌と真菌症**

医療ジャーナル社 定価 四、九〇〇円(税抜)
石和田 稔彦(平2)



ビジュアルエイドという言葉は、最近よく使われる。文章で書かれている内容を、図表などを使い視覚的に補うことで、理解を深めることを可能とするプレゼンテーションの大切な技法である。本書は、真菌と真菌感染症についてビジュアルエイドを駆使し書かれた、この分野において画期的な書籍である。本書を開くと全てのページに図表や写真が

防災ネットワークの構築」(主任研究者: 摂南大学理工学部建築学科、池内淳子准教授)を研究課題として、摂南大学・弘前大学・竹中工務店で共同研究を行っています。本年秋には、福島市で「災害時の病院からの全患者避難」をテーマにフォーラムを行う予定にしています。興味のある方はぜひご参加ください。

数多く掲載されており、これらを眺めているだけでも十分楽しめる内容となっている。しかし、単なるアトラスのような写真を供覧したものではない。真菌と真菌感染症に関する重要な情報が満載されており、大変充実したものとなっている。その内容は、真菌の分類法・構造・免疫機構などの基礎的な事項から、各診療科で問題となる真菌感染症、検査診断法、治療薬などの臨床的な事項に至るまで掲載されており、さらに輸入真菌症や病理組織診断のポイントなどについても記載されている。

一般的に真菌は、細菌やウイルスに比べ、難解なイメージがある。しかしながら、真菌は、日常生活の中でも馴染みのある微生物であり、また、強力な免疫抑制療法などが行われる現在の医療現場において、その対応が最も求められるようになってきている微生物でもある。しかしながら、真菌について気軽に学べる専門書はこれまであまりお目にかかることはなかった。

本書は各項目が10ページ程度に簡潔にまとめられている。それは、本書が月刊誌「化学療法領域」という雑誌の「目で見る真菌と真菌症」というシリーズを集めて作られたことによる。これは読者にとっては大変フレンドリーである。全体を通して最初から読まずとも興味のあるところからアプローチし、各項目を短時間で読むことが可能であるからである。しかし、簡潔にまとめられているからといって、初心者向けのものとは言えない。編者の亀井克彦先生をはじめ執筆者は全て日本を代表する真菌感染症の専門家であり、その内容は、充実している。執筆者の中には、千葉大学関係者の先生も多く含まれており、千葉大学が日本で唯一の公

的な真菌症専門の医学研究センターを有する大学であることを反映している。本書は真菌の基礎研究や真菌症の臨床を理解する上で、大きな助けとなる書籍と思われる。どなたにもぜひ一度手にとって読んでいただきたい。

**赤倉功一郎(昭59) 編
よくわかる最新医学
前立腺がん**

主婦の友社 定価 一、四〇〇円(税抜)
赤倉 功一郎(昭59)



平成23年に「前立腺がんの最新治療」を上梓したところ、幸いにも各方面からご好評をいただき多くの方々にお読みいただくことができました。我が国において、前立腺がん急増の予想は不幸にも現実のものとなっており、毎年多くの方が新たに前立腺がんを診断されています。一方、とりま医療環境にも変化が起きており、今前立腺がんを心配されている方々の要望にお応えするためには、最新の情報を取り入れた改訂版が必要だと考えました。そこでこのたび、前著を全面的に改訂し、新著「よくわかる最新医学 前立腺が

ん」として出版することといたしました。前立腺がんの診療に関して、初版後の3年間に大きな変革がありました。まずひとつは、早期がんに対する治療法の多様化です。具体的には、早期前立腺がんにおいては、無治療でのPSA監視療法から、根治手術、放射線治療など、さまざまな選択肢があります。さらに、手術にも開腹手術、内視鏡手術、ロボット補助手術があり、放射線治療にも、小線源治療、X線による外照射や粒子線治療まで、専門医でも把握しきれないほど多くの治療法があります。これらの多岐にわたる治療法について、中立的立場から長所と短所をわかりやすく解説することを心がけました。

で、大きな助けとなる書籍と思われ。どなたにもぜひ一度手にとって読んでいただきたい。

平成26年に新たな治療薬が3剤認可され発売されて、進行前立腺がんの患者さんにとっては大きな福音となりました。これらの新規治療法についても詳しく紹介しています。

今後、ますます増えていくであろう前立腺がんに対して、正確な知識を得て、早期発見をめざし、個々の患者さんに相応しい適切な治療対応をしていくうえで、本書が少しでも役立つことができれば、これ以上の喜びはありません。

君津木更津なのはな同窓会の皆様

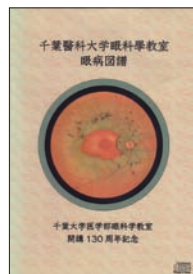
年次総会、講演会、懇親会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちいたしております。

日時：平成27年5月26日(火)
午後6時30分～
会場：東京ベイプラザホテル(木更津市新田)
会費：3000円 懇親会10000円
講演：千葉大学大学院医学研究院眼科学 教授 山本 修一(昭58)
『加齢の眼疾患と千葉大学病院の将来構想』について
連絡先：岡 陽一(昭56) 君津中央病院
TEL: 0438-36-1071

眼科学教室同窓会
2014年 第51号



眼科学教室
開講130周年記念
千葉医科大学眼科学教室
眼病図譜



千葉県みのはな会

平成26年5月 第14号



目次	
巻頭言	1
新任の挨拶	2
エッセイ	4
人間は気高くあれ	8
我が家の「ねこ」を描く	10
千葉より万葉の里、筑波に来た当時の思い出	12
風に乗って	14
七井村の病院	17
当法人においてもEPA看護師・介護福祉士研修始まる	18
脳外科もやるバイオリン弾きの音楽談義(2) 一大作曲家の病歴	20
オペラに挑戦	22
あんずのウンチ	24
アフリカ紀行—医師の守備範囲—	25
マイナスの中にプラスの可能性が存在する	28
音の出る箱は買わないよ	29
八面山	30
中国雑感	32
リハビリテーションについて：私の経験	34
総会記録	36
編集後記	41
会員名簿	42
会則	45

茨城県みのはな会

平成26年12月 第5号



目次	
巻頭言	1
新任の挨拶	2
エッセイ	4
人間は気高くあれ	8
我が家の「ねこ」を描く	10
千葉より万葉の里、筑波に来た当時の思い出	12
風に乗って	14
七井村の病院	17
当法人においてもEPA看護師・介護福祉士研修始まる	18
脳外科もやるバイオリン弾きの音楽談義(2) 一大作曲家の病歴	20
オペラに挑戦	22
あんずのウンチ	24
アフリカ紀行—医師の守備範囲—	25
マイナスの中にプラスの可能性が存在する	28
音の出る箱は買わないよ	29
八面山	30
中国雑感	32
リハビリテーションについて：私の経験	34
総会記録	36
編集後記	41
会員名簿	42
会則	45



JSAN II 新世代のデスクトップセルソーター

特長：
 2レーザー6カラー～4レーザー8カラーまでの自在なアップグレード
 フローセル脱着可能、自動光軸調整（2レーザータイプのみ、3レーザータイプは開発予定）
 4Way ソート、液滴数は自動調整の新ソートロジック採用

ベイ バイオサイエンス株式会社

静岡のはな会

平成27年1月 第23号

第23号 むのはな静岡

巻頭言

平賀伸紀 1542
すずきせんじろうの病院
健康管理センター



平賀伸紀 1542
すずきせんじろうの病院
健康管理センター

るのはな静岡

発行
平成27年1月25日
第23号

発行所
静岡のはな会
会報 印刷部印刷

編集
のはな静岡
編集委員会

この巻頭言は、平賀伸紀先生の「すずきせんじろうの病院」に関するもので、先生が医療現場で実践されている「健康経営」の考え方を紹介されています。先生は、病院の経営を単に利益追求ではなく、患者の健康とスタッフの幸福を重視する「健康経営」の重要性を説き及ぼされています。また、先生が「すずきせんじろうの病院」で実践されている「健康経営」の具体的な取り組みについても紹介されています。

この巻頭言は、平賀伸紀先生の「すずきせんじろうの病院」に関するもので、先生が医療現場で実践されている「健康経営」の考え方を紹介されています。先生は、病院の経営を単に利益追求ではなく、患者の健康とスタッフの幸福を重視する「健康経営」の重要性を説き及ぼされています。また、先生が「すずきせんじろうの病院」で実践されている「健康経営」の具体的な取り組みについても紹介されています。

むのはな静岡 第23号

目次

巻頭言 静岡のはな会会長 忍頂寺紀彰…………… 1

平成26年度 総会報告…………… 2

学術講演会
高橋和久教授をお招きして……………かけい医院 山本 俊樹…………… 4
腰部脊柱狭窄症
—概念の成立診療とガイドライン— 千葉大学大学院医学研究院
整形外科科学教授 高橋和久先生

沼津市立病院と静岡のはな会……………顧問 勝呂 安…………… 7

静岡のはな会新任理事の挨拶
土川 秀紀…………… 8
名古 良輔……………10

静岡のはな会 理事会報告 (平成26年10月11日)……………11

藤枝静男と「静修会」……………管ヶ谷純弘……………12

伊藤弥忠先生追悼集より
先生と静修会 千葉保次 (昭12)……………13
酋長の娘 勝見 次郎 (藤枝静男・昭11)……………15

藤枝静男をつくりあげたもの 木取画家・「藤枝静男」研究家 青木鐵夫……………17

会員の移動について……………19

掲示板……………20


編集後記……………20

栃木県のはな会

平成27年 第12号

とちぎ むのはな

平成27年 第12号



栃木県のはな会
千葉大学医学部むのはな同窓会栃木県支部

とちぎ むのはな 第12号

目次

巻頭言…………… 1

平成26年度 栃木県のはな会 総会プログラム…………… 2

平成26年度 会報報告…………… 3

会長報告…………… 4

監事報告…………… 4

会長改選…………… 4

総会写真…………… 5

全国のはな会 会長ご挨拶…………… 12

各県のはな会 会長挨拶

千葉県のはな会 会長…………… 13

東京都のはな会 会長…………… 13

茨城県のはな会 会長…………… 14

埼玉県のはな会 会長…………… 14

群馬県のはな会 会長…………… 14

新潟県

「不眠症治療の新しい展開」……………心の風クオエテ千葉 山内 直人 (昭59年)…………… 15

病院紹介だより

とちぎの木病院……………足立 武雄 (昭56年)…………… 16

下野済生会病院……………村野 博一 (昭59年)…………… 17

足利理科大学病院……………長野 豊 (昭43年)…………… 18

上野済生会病院……………千川 康弘 (昭55年)…………… 18

宇都宮記念病院……………梶尾 博彰 (昭44年)…………… 19

聖徳医科大学病院……………山崎 友典 (昭57年)…………… 20

福岡記念病院……………藤田 武雄 (昭42年)…………… 21

追悼誌

中村 基先生を偲ぶ……………50年経たぬ 長井 千鶴 (昭50年)…………… 22

杉川 敏夫先生を偲ぶ…………… 22

心のはな情報

天の声……………森田 武雄 (昭32年)…………… 24

春の聲……………土山 泰成 (昭33年)…………… 25

エッセイ

全国のはな同窓会平成26年度活動報告…………… 26

大学ガバナンス改革と学長選挙……………藤原 隆之 (昭47年)…………… 31

医学教育—脳神経外科の発展……………藤田 博一 (昭34年)…………… 32

体系的脳神経外科の発展……………藤田 博一 (昭52年)…………… 35

県民協会のとはな情報誌

会報掲載…………… 37

会報掲載…………… 38

栃木県のはな会 会報…………… 41

贈字：元栃木県同窓会 会長 川山 一郎

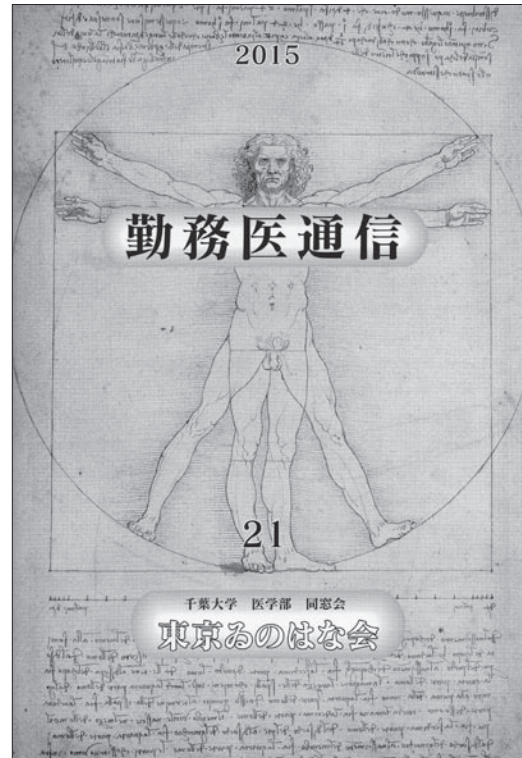
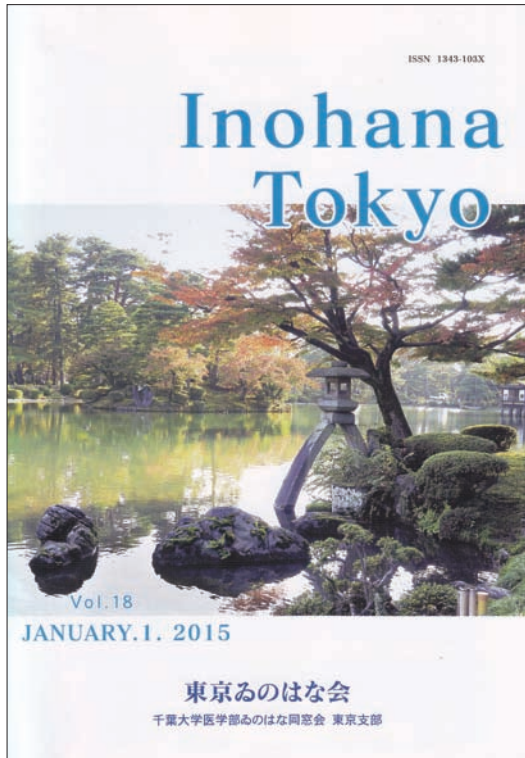
「親切・信頼・清潔」 お客様を第一に考えた

東洋リネンサプライ株式会社

〒136-0076
東京都江東区南砂5丁目16番5号
info@toyo21.co.jp
http://www.toyo21.jp
電話 03(3640)6451(代表)
FAX 03(3640)1380

東京るのはな会

平成27年1月 第18号



**第130回関東連合産婦人科学会
総会・学術集会を開催いたします。**

日時：平成27年10月24(土)～25(日)

会場：幕張メッセ(千葉市)

特別講演：海堂 尊 氏

会長：生水真紀夫

(千葉大学大学院医学研究院生殖医学 教授)

問い合わせ：

千葉大学大学院医学研究院生殖医学

TEL 043-226-2121

目次

Inohana Tokyo vol.18

Page

巻頭言	年頭のご挨拶	濱田 高徳	2
	健康長寿社会の実現には融合医療の確立が肝要	廣瀬 輝夫	5
	歌の話	神山 一郎	7
	不惑の思い出	四家正一郎	9
	富士登山とその頃の思い出	小沢 昭司	12
	傘寿と米寿の間で	永野 俊雄	15
	人殺しもいろいろ	藤山 泰信	17
	書評 寄生虫なき病	楳垣 有徳	20
	老人たちもそれなりの夢を見る	石山 淳一	22
	卒業してから	吉田 光宏	25
	編集後記	岩倉 弘毅	27

勤務医通信 vol.21

	東京のはな会の勤務医のめざましい活躍	吉原 俊雄	31
	唾液腫瘍を来す疾患のいろいろ	吉原 俊雄	33
	青梅の地から	上田源次郎	36
	食道癌・胃癌治療から臨床腫瘍学まで ～東京大学での5年間を振り返って～	鳥田 英昭	38
	帝京大学附属病院リハビリテーション科に移って	緒方 直史	41
	病理学以外にも 医学英語における口述試験の模擬患者役や 医学研究における倫理的問題の講義等	橋本 直文	45
	食と薬の安全性の保持には現行規制の改善が必要	廣瀬 輝夫	48
	予算決算		55
	平成27年度 のはな会 行事予定		56
	東京のはな会 役割分担		56
	東京のはな会会則		57



as human, for human

PARAMOUNT BED

各地のものはな会 だより

安房のものはな会

平成26年10月15日(水)

18時45分より安房のものはな会総会・学術講演会が、たてやま夕日海岸ホテルに於いて開催されました。今回は、千葉大学大学院医学研究画像診断・放射線腫瘍学教授である宇野隆先生(昭63)をお迎えして行われました。

定例総会は安房のものはな会会長、青木謹先生(昭36)の挨拶に始まり、渡辺啓治先生(昭61)より平成25年度の収支会計報告があり、原久彌先生(昭34)の監査報告と円滑に進行し、無事終了致しました。

宇野隆教授には、「放射線治療の進歩と今後」と題する講演をして頂きました。お話しは、癌の放射線治療には「癌を治す目的の根治的治療」と「がんによる症状を緩和する緩和的治療」があることから始まり、骨転移に対する実際の除痛治療の例も挙げて説明して下さいました。また放射線治療計画に最新の画像診断機器を用いて、3次元治療を行っているようで、いかに目

標とする腫瘍に正確に照射し、かつ、隣接した正常組織にはいかに照射しないかが重要だそうです。また治療に伴う副作用についても説明して下さいました。治療中に発症する早期反応は、再生組織における母細胞の一次的な減少・機能障害で、これは照射が終了すると直

ちに回復するそうです。しかし、治療終了後数カ月してから認められる晚期反応は、組織の線維化や血行障害、分裂の遅い機能細胞の障害でなかなか回復せず、これが厄介だそうです。さらには、消化管の動きに因る臓器の位置移動を考慮し、画像診断で毎回照射部位を

変える「画像誘導(SRT)」、腫瘍をピンポイントで照射する、「体幹部定位照射(SRT)」、呼吸による移動や臓器の変形・堆積変化を考慮し、呼吸に同期させ照射する4次元治療「呼吸同期照射(IGRT)」、まだらな線量の放射線を他方から照射し、体内で腫瘍の形にピタリと合わせる「強度変調放射線治療(MRT)」など最新の癌治療について、詳しく丁寧の説明して下さいました。

放射線治療は各科、どの分野の疾患の治療法になることもあり、参加者からの質問が相次ぎ、途中で中断させて頂くことになってしまい、質問は懇親会に持ち越しさせて頂きました。

講演会が終了した後、全員で宇野先生を囲んでの記念撮影を行った後に、更に場所を波奈に移し、本位田泰介先生(昭28)の「乾杯」の御発声で懇親会に移りました。懇親会の席でも宇野先生は気さくに会員とグラスを交わり、最近の大学の状況や放射線治療の話で盛り上がり、大いに語り合っていました。また有意義な一日となりました。

伯陳哉(昭35)、青木謹(昭36)、宇野隆(昭63)、本位田泰介(昭28)、西川義明(昭34)、原久彌(昭34)後列：天野晋(平3)、水谷正彦(昭52)、武内重樹(北里大・昭53)、伊賀寧(聖マリア大・平2)、渡辺啓治(昭61)、辻博勝(平2)、黒野隆(東海大・昭59)、林宗寛(昭60) (天野晋)

第40回多摩のものはな会

平成26年10月25日(土)

に国分寺駅ビル飛鳥サロンにて、第40回多摩のものはな会を開催しました。17名の先生が参加して下さいました。

会長の鈴木光先生の挨拶の後、次期会長に山本弘先生の就任が参加者全員の賛同で決まりました。続いて救急集中治療医学教授の織田成人先生(昭53)に講演していただきました。ドクターヘリから患者さんを搬送するところを臨場感あふれる動画で見せてもらいました。救急の救命率が素晴らしく良いことに参加の先生から感嘆の声が上がり、母校がますます発展している様子を誇らしく思いました。



講演の後は、最長老の佐野先生の音頭で乾杯して、楽しい懇談の時を過ごしました。食事をしながら、恒例の自己紹介をしました。70歳代はもちろん、80歳代の先生も現役でお仕事をしていたりして、まだまだ頑張れるぞと、活力をいただきました。多摩総合医療センターで研修中の高橋由希子先生が、唯一人の平成の卒業生として参加して下さい、花を添えてくれました。来年も皆さん元気で再会しましょうと、鈴木会長の一本

締めでお開きとなりました。写真右から
前列：花岡建夫(昭33)、佐野迪雄(昭29)、鈴木光(昭36)、織田成人(昭53)、山本弘(昭39)、浅見敦(昭30)、神山守人(昭32)後列：高橋由希子(平24)、藤田明(昭55)、野本正嗣(昭54)、小山明(昭35)、菊池友允(昭47)、久満董樹(昭40)、桑木綱一(昭41)、上田源次郎(昭53)、石川て代(昭53)、松原公護(昭54) (石川て代)

栃木県のはな会

平成27年1月25日宇都宮市

ホテル・ニューイタヤにて盛大に開催されました。伊藤晴夫全国のはな会長をはじめ、三枝一雄千葉会長、済陽高穂東京都会長、



長、中田義隆茨城県会長、吉川広和埼玉県会長のご臨席も仰ぎ、各県のはな会の現状や活動状況の報告があり、特別講演では新しい睡眠薬「ベルソムラ」の紹介もあり、記念撮影のあと懇親会では何年ぶりかでお会いした旧友とも話が弾み有意義な時をもつことができました。

写真右から
前列：斎藤弘司(昭43)、福田武隼(昭42)、吉川広和(昭40)、坂田早苗(昭34)、三枝一雄(昭32)、伊藤晴夫(昭39)、山内直人(昭59)、済陽高穂(昭45)、大井利夫(昭35)、中田義隆(昭36)、星野聡(昭43)

中列：門馬公経(昭42)、須田啓一(昭52)、布川武男(昭32)、崎尾秀彰(昭44)、森偉久夫(昭51)、十川康弘(昭55)、村野俊一(昭50)、安西尚彦(平2)、岩本容武(平5)
後列：矢作龍二(昭59)、小池正造(昭53)、大宮安紀彦(昭53)、戸邊豊総(旭川医大・平元)、廣田勝太郎(昭55)、高原正信(昭57)、早乙女勇(昭48)、貝淵俊光(平5)、石塚満(平3)
(大宮安紀彦)

東京のはな会

今年の新年会は平成27年1月24日(土)お茶の水銀座アスターにて開催されました。昭和24年卒から平成18年卒の会員まで24名が参加しました。済陽高穂会長(昭45)の挨拶に始まり、報告事項、特別講演と進み、記念撮影の後懇親会が行われました。

特別講演は東京都保健医療公社荏原病院感染症科部長の角田隆文先生(昭57)に「国際感染症の現況と対策」の演題で講演いただきました。昨年西アフリカでアウトブレイクが起こったエボラ出血熱の状況も含め、最新の知見をわかりやすくお話しいただき大変興味深く拝聴させていただきました。エボラ出血熱については遺体に対する慣習の違いや医療資源の不足、感染予防策が十分に行われていないことなどから、感染が拡大したとのことでした。エボラ出血熱の致死率は高いが、感染は接触感染によるものなので感染予防対策がきちんと取れば、簡単には感染しないということも理解できました。国際的な支援のもと早期に収束することを願っております。

懇親会では田中光先生(昭24)に乾杯のご発声をいただき、来賓挨拶では栃木県のはな会会長の坂田早苗先生(昭34)からご挨拶をいただきました。その後諸先輩、参加者のあいさつが続き、和やかに懇親を深める事が出来ました。大先輩のお話にもまだまだ頑張らなければと思います、都内及び近郊の大病院等の第一線で活躍しておられる先生方の言葉を頼もしく思いました。千葉を離れ、東京で頑張っているのはな会員は多いと思いますので、若手会員の参加者が増え更に活性化することを期待しています。

写真右から
前列：小川富雄(昭48)、岩倉弘毅(昭37)、村瀬靖(昭30)、藤山嘉信(昭30)、坂田早苗(昭34)、角田隆文(昭57)、済陽高穂(昭45)、長谷川正博(昭28)、小沢昭司(昭27)、田中光(昭24)
後列：日比谷孝志(平18)、櫻井幸弘(昭46)、岡本和久(平2)、古山信明(昭43)、吉原俊雄(昭53)、伊丹純(昭56)、菊池友允(昭47)、橋本英明(昭45)、林泰(昭45)、島田英明(昭59)、安西尚彦(平2)、松井英雄(昭55)、矢端幸夫(昭46)
(菊池友允)

懇親会では田中光先生(昭24)に乾杯のご発声をいただき、来賓挨拶では栃木県のはな会会長の坂田早苗先生(昭34)からご挨拶をいただきました。その後諸先輩、参加者のあいさつが続き、和やかに懇親を深める事が出来ました。大先輩のお話にもまだまだ頑張らなければと思います、都内及び近郊の大病院等の第一線で活躍しておられる先生方の言葉を頼もしく思いました。千葉を離れ、東京で頑張っているのはな会員は多いと思いますので、若手会員の参加者が増え更に活性化することを期待しています。



目黒地域のはな会

平成26年9月27日(土)

18時から、目黒の雅叙園で目黒地域のはな会と称した会を催しました。昭和大学名誉教授の栗原稔先生(昭36)、目黒区碑文谷に在住)の発案で、目黒駅界隈(目黒区、品川区、港区、世田谷区)に住居または勤務しているのはな同窓会員が少なからずいるので、ぜひ集まって情報交換をしようという事に相成った次第です。昔は目黒のはな会があり、栗原先生が招かれたこともあったとのこと。長年、開催がなかったようですが、栗原先生が、目黒本町に開業されていた九嶋璋二先生(昭23)とお会いになる機会があり、同先生からご自分は何えないがぜひ後輩の諸氏で目黒のはな会を開いて欲しいと言われたそうです。

東京のはな会のブロックとの関係は？勤務医部会との関係は？場所的に城南ブロックという名称では？などといういろいろな意見があったようですが、まずは会の仮名称と第1回の開催日程を決め、目黒駅界隈に住居又は勤務している方々に会の趣旨と開催のご案内を

させていただきました。会員名簿を参考に41名の方に郵便でお誘いしたところ結果的に13名にご参加いただいた次第です。

初めての会ですので、まずは栗原先生からこの会開催のいきさつを改めてご説明いただき、後に全員の自己紹介となりました。まさに多士済々で、お互い感心したり、触発されたり、様々なことを教示いただいたりと、きわめて意義ある時間を過ごせました。アルコールで口が滑らかになるに



つれ、次回の話、皆で宮蘭千代子先生(昭45)のリサイタルを拝聴する話、相互訪問する話、会の名称を目黒雅叙園の会にしようなど、止まることなく瞬く間に時間が過ぎていきました。本年9月頃に第2回の開催を予定しておりますので目黒駅界隈の先生方には奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。

写真右から
前列：岡田直美(昭61)、奈良橋俊子(平9)、栗原稔(昭36)、宮蘭千代子(昭45)、小野直美(昭57)
後列：松本伸行(平3)、長村文孝(平元)、加藤直也(昭61)、大矢和光(昭50)、櫻井幸弘(昭46)、高安賢一(昭48)、長尾啓一(昭47)、下山直人(昭57)
(長尾啓一)

千整会 東京埼玉支部会

平成27年1月17日(土)に新宿のハイアットトリージエンシーで、平成27年千整会東京埼玉支部会が開催されました。本年度の幹事は、東京女子医科大学整形外科加藤義治主任教授(昭53)でした。本会は、東京都内、埼玉県内に勤務する千葉大学整形外科医師から成っており、今回の出席者は14名でした。

本会では、参加者全員が整形外科に関連する診療に従事しているため、会員による専門的な内容の講演が行われています。今年は、テーマを手の外科領域である手根管と決めて行われました。東京女子医科大学助教の岩倉菜穂子先生(平14・富山医大)により透析患者における手根管症候群について、東京城東病院の齋藤忍先生(平元)により手根管症候群の解剖学的特徴に



ついてご講演いただきました。両先生は、千葉大学整形外科の手の外科グループに所属され、手の外科の診療にあたられています。岩倉先生には、日本の透析の現状や、透析患者の手根管症候群の病態、治療など、最新のデータをご提示いただき、講演のあとに討論しました。齋藤先生には、手関節部のMRI像を用い、健常者と手根管症候群患者の手根管や正中神経の形態を詳細にご説明いただきました。日常診療で疑問に思

っていたけれども、どこにも書かれていないことを、大変判りやすく教えていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。講演のあとに、山根友二郎先生(昭37)による乾杯のご発声があり、懇親会が開催されました。ビールやワインを飲みながら、出席者がそれぞれ近況を報告しました。

本会は、千葉から少し離れた地域で、診療連携がある同門会員と、毎年、新年会を兼ねて開催されます。

写真右から
前列：出沢明(昭55)、加藤義治(昭53)、山根友二郎(昭37)、秋田徹(昭51)、鈴木貞夫
後列：村田泰章(平5)、西山秀木(昭54)、渡辺泰(昭57)、今野慎(昭62)、岩倉菜穂子(平14・富山医大)、中馬敦(昭62)、齋藤忍(平元)、大淵聡己(平3)、塚周平(平9)
(村田泰章)

開催予定の行事を お知らせください

学会、研究会、ののな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務室へお知らせください。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月、および9月です。

クラス会

昭和24年卒クラス会

昭和35年以来、私の一人幹事で毎年クラス会を続け



御茶ノ水賓館で大いに談笑しました。
写真右から
前列：中村卓郎、長澤仁一、北条弘、中島令一
後列：寺島東洋三、樋口豊、鈴木直基、田中光
(長澤仁一)

てきました。この一年で5名亡くなられ、とうとう連絡のつく同級生が四分の一の30名になってしまいました。卒後65年経っているので仕方がないですが、この30名の半数は現在外出の出来ない状態です。卒後60年の会の時は、向島の料亭『櫻茶や』で十数名集まったのですが、5年経った今年には僅か8名になってしまいました。今回は銀座アスタ

さんろく会 (昭36)

平成26年10月5日、さんろく会(昭和36年卒)は横浜市で同窓会を開催しました。神奈川県組の担当ですが、千葉県の方々の応援(青木謙、黒田健昭、齋藤利隆、関幸雄、長谷川修司、前嶋清)で協議しました。箱根熱海、鎌倉など挙げられま

したが、同窓会の「久闊を叙する」という主旨から比較的近い横浜市元町中華街の「聘珍楼」を会場としました。因みに聘には礼をあつくして招きむかえるという意味があります。当日はあいにく台風18号

の接近で大雨となり気をもみましたが、神奈川在住の川村夫妻、宮代道子、東京の野尻雅美の応援で、会員30名、同伴の御夫人7名の参加となりました。26年春の叙勲の中田義隆氏は突然の体調不良で不参加となり



残念でした。野尻雅美君の乾杯の音頭で会食となりました。会員はアラエイトで、男性の健康寿命を多く過ぎています。会が始まりますと、体のあちこちの不調を肴に話題豊富、たちまち学生時代に戻り大いに盛り上がりしました。山下公園の散策など企画しましたが、天候不良で中止となり幹事としては残念でした。次回は千葉県が受持つことになり

ました。恒例の写真撮影で閉会しました。一つ余禄がありました。聘珍楼は参加者の中に一名でも65歳以上の方がいれば、全参加者会費が10パーセント割引となりました。
写真右から
前列：藤塚立夫、松本生、田部井徹、吉川武彦、長谷川幸子、吉井逸郎、鈴木伸典、青木謙、近藤省三、前嶋清、齋藤利隆

中列：鈴木光、三宅伊豫子、栗原稔、前嶋夫人、塚原夫人、塚原重雄、加藤昌義、小野沢夫人、副島訓子、今野夫人、今野昭義、谷合夫人
後列：関幸雄、長谷川修司、川村孝子、谷合明、山角博、山角夫人、小池宏之、小野沢君夫、宮代道子、野尻雅美、野尻夫人
(吉井逸郎)

第59回東医体代表主管に関する資金援助のお願い

第59回東医体千葉大学医学部運営本部 運営本部長 中村俊介
財務局局長 高倉大暉

日頃は学生活動に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度平成28年度に実施される第59回東医体の主管代表を千葉大学医学部が務めることになりました。東医体は学生主体で運営される大会であり、千葉大学医学部が主管代表を任されるのは36年に1度のことであります。運営に当たっては正式な予算では足りない部分も多く、例年主管代表校が自大学及び関連機関からご寄付を頂戴し、運営助成金として不足分を補うことで東医体の運営にあたります。

運営本部の正式予算は、東医体定例理事会により定められ、容易には増額できないということを鑑み、私たち第59回東医体千葉大学医学部運営本部では、総額440万円を目標に運営資金の助成を各支援団体の皆様をお願いしてまいりました。みのはな同窓会からその一部である220万円をご支援いただく予定になっております。

誠に恐縮ですが、個人の有志の方々からご支援いただければと誌面にてお願いいたします。下記に振込先口座を記載しております。何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 千葉銀行 千葉駅前支店 普通預金口座
- 口座番号：3728445
- 名義人名：第59回東医体千葉大学医学部運営本部代表 高倉大暉

問い合わせ先：59th.chiba.honbu+zaimu@gmail.com

よいな
四一七会 (昭47)

晩秋の11月30日午後、東京日比谷公園内の松本楼にて7年ぶりの四一七会が開催されました。参加者は40名で、紅葉の中の松本楼は昭和40年代の激動期に学生時代を送った我々に対しさまざまな出来事を想起させました。

森田敏和君が持参したドイツ学生歌CDをBGMとして気分が高揚したところで、鈴木信夫君からおののな同窓会の近況を報告してもらいました。ついで獨協医科大学学長、稲葉憲之君の乾杯の発声で開宴となり、しばし昔に返って歓談。その後、40人全員が近況を報告致しました。昔のあの彼からこんな話が?という場面もしばしばありましたが、皆それぞれ社会に貢献してきた自負を押し測ることができる話でした。ますます多忙という者もいましたが、多くはペースを少しずつダウンし始めたようです。また、途中でこれまで住居不詳であった玄千享君が逝去されたことが報告され、あらためて黙祷し冥福を祈念しました。

締め挨拶は多忙を極める横浜労災病院院長の西川

哲男君にお願いし、皆で杯を飲み干しました。晩秋の陽はまさにつるべ落としのごとし。またたくまに訪れた黄昏の中、近い再会を契り散会となりました。

写真右から
前列…大野一英、大西久仁彦、大崎逸朗、榎本貴夫、猪股弘明、稲葉憲之、伊藤文憲、石川詔雄、旭俊臣、浅野誠



二列目…田井東風、鈴木洋文、鈴木信夫、近藤春樹、鈴木光二、鈴木淳子、鈴木明、北沢栄次、菊池友充、岡信男、尾形実
三列目…広瀬彰、塩田敬、西野卓、西川哲男、鍋嶋誠也、中村勉、中嶋征男、長尾啓一、豊田敦、外岡正英
最後列…若山芳彦、力武知之、山森秀夫、森田敏和、村上光右、宮路太、松島保久、松川正明、牧野定夫
(長尾啓一)

五一会 (昭和51年)

平成27年3月1日、やや肌寒い春雨の中、51会本会を東京千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニ(東京)・ガーデンコート「アリエスの間」で13時から15時30分まで開催した。本来ならば4年毎、オリンピック年の開催ではあるが、今回はJohns Hopkins Univ. 生理学教授の白幡真知子君の帰国に合わせて菅井桂雄、門山周文が幹事となった。急遽の開催決定であったが、門山の関東大学(インカレ)ヨット部同期の青山学院卒のホテル勤務の古屋さんには広い会場の確保、その後の二次会の手配等で大変お世話になった。感謝申し上げる。



周知期間が短かったため恩師を御呼びすることは出来なかったが、43名が参集した。

はじめに昨年に逝去した寺田夏樹君、土屋聖二君を含む8人の物故者への黙祷の後、ご婦人方の化粧が完璧の間に記念撮影を行った。この後、開会挨拶を本学整

療だけでなく多彩な話題で盛り上がった。引き続き、二次会にも同じホテル内のDining & Barで27名が参加し、狭い空間でワイワイ・ガヤガヤと楽しい時間を過ごし、次回の再会を約して名残惜しみながら散会となった。

写真右から
前列…山門(久我)悦子、山崎(角田)広子、白幡真知子、山森(福富)真紀、田中(佐久間)晶子、伊古田(古藤)裕子、小野(泉)元子、森(河端)順子
二列目…由佐俊和、西本良博、小野和則、坂本薫、小松健祐、菅井桂雄、高橋和久、中村千里、森俣久夫
三列目…寺野隆、安藤研、秋田徹、宇津木誠、永楽清人、武田憲夫、塚本剛、川村健二、児島孝行、山本和夫、縄田泰史
四列目…小野純一、大須英夫、松谷正一、柳沢孝夫、セレストラ・ラマドラー、大山欣昭、檜山幸孝、平井康夫、丹羽公一郎、門山周文
最後列…尾世川正明、宮本茂樹、内藤仁、南波美伸、林春幸
(門山周文)

学問に寄り添う篤志の力

公益財団法人 猪之鼻奨学会
会長 鈴木 信夫 (昭47)

の は な 同 窓 会 報 の 読 者 諸 氏 に お か れ ま し て は 、 公 益 財 団 法 人 猪 之 鼻 奨 学 会 の 存 在 を ご 存 知 で し ょ う か 。
インターネット上、オンライン会報のトップページにあるオンライン書庫という項目をクリックすると、本財団のホームページをご覧いただけます。そのホームページで記載されている歴史を読むと、いかに多くの諸先生方に支えられて管理・運営がなされてきたかをうかがい知ることができ

ます。
さて、現在の猪之鼻奨学会の状況はどうでしょうか。公益財団たる基本財産は十分存在すると言えます。ただし、あくまでも公益財団を保証する基本財産であり、日々の運営に使えるものにはありません。また、その基本財産に基づく金利上の収益は、最近の低金利政策により、運営上ほとんど役に立ちません。では、どうするかです。
財団の事業は、次の2つが主です。(1)医学・薬学における学術上の研究費の

支 援、(2)医学・薬学の学 生、あるいは、医学・薬学 系大学院所属の学生に対す る奨学金の貸与、という具 合です。最近では、毎年度、 (1)においては1名あたり 30万円にて5名、(2)にお いては1名について30万円 を準備してきました。毎年 度の使用可能な金額は、お よそ100万円、150万 円です。

ご寄付にご賛同いただける方は
下記口座にお振込みください。

千葉銀行 本店営業部
口座番号 3397281
口座名
公益財団法人猪之鼻奨学会 会長 鈴木信夫

または、事務局にご連絡いただければ、振込手数料が無料のゆうちょ銀行の払い込み票を送付させていただきます。
《事務局》
〒260-8670
千葉市中央区支鼻1-8-1 (千葉大学医学部内)
Tel & Fax 043-226-2509
E-mail ishougakukai@chiba-u.jp

わずかに増加してきており ます。また、100万円以 上の高額な寄附金もいた だいております(詳しくは、 別途本会報に同封してあり ます猪之鼻奨学会報第19号 をご覧ください)。そのよう な活発な篤志の力がさらに 拡大することを願う次第で す。是非とも、支援費や貸 与金の増額と件数を増やし たいものです。その上で、 医学・薬学の将来を担う学 徒を数多く輩出することに、 本財団が少しでもお役に立 ちたいものです。皆様のお 力添えをお願い申し上げます。(なお、寄附行為につい ては、公益財団であること から、税制上の優遇措置を 受けることができます。)

研究助成金の交付実績 (最近3年間)

所属	研究領域	氏名	研究課題
平成26年度			
千葉大学医学部附属病院	医療薬学	高塚 博一	母状血管腫に対するチモロールゲルの製剤学的検討とその有用性
順天堂大学院医学研究科 環境医学研究所	環境医学	富永 光俊	アトピー性皮膚炎における難治性かゆみの発症機序の解明と治療 応用一後根神経節細胞とグリア細胞の相互作用の観点から一
千葉大学医学部附属病院	整形外科	山口 智志	超音波エラストグラフィによる、アキレス腱断裂後の治癒過程 の定量的評価法の確立
千葉大学医学部附属病院	地域医療	土井 俊祐	在宅医療にかかる需要の将来設計と可視化ツールの開発
千葉大学大学院薬学研究院	薬品物理化学	鈴木 優章	画像診断や光線力学療法を目指したスピロ共役型近赤外吸収・発 光素子の開発
平成25年度			
千葉大学大学院医学研究院	分子腫瘍学	田中 健史	大腸側方発育型腫瘍 (lateral spreading tumor: LST) から示唆し うる腫瘍発育形態に関するマイクロRNAおよびそのターゲッ ト遺伝子の同定
千葉大学医学部附属病院	整形外科	古谷 丈雄	老化に伴う脊髄脆弱性・易損性の分子病態解明
千葉大学大学院医学研究院	耳鼻咽喉科	木下 崇	癌転移モデルマウスを用いた癌転移抑制型マイクロRNAの抗腫 瘍効果の解析
順天堂大学院医学研究科	環境医学	川崎 広明	14-3-3タンパク質の酸化ストレス依存性機能障害による神経疾 患病態形成機構の解明
千葉大学大学院薬学研究院	生物系薬学	東 恭平	天然物由来新規コンドロイチン硫酸の構造決定及び免疫調節機構 の解明
平成24年度			
千葉大学大学院医学研究院	分化制御学	谷口 俊文	Follicular HelperT細胞とB細胞の抗体産生における相互作用と メカニズムの解明
千葉大学大学院医学研究院	脳神経外科	八巻 智洋	新鮮ヒト手術検体より作成するガン幹細胞モデルを用いたMyc. p53関連遺伝子に関する腫瘍悪性化機序研究
千葉大学大学院薬学研究院	薬化学	根本 哲宏	医薬化学研究への応用が期待される縮環性有機分子の効率合成法 の開発



猪之鼻奨学会ホームページ
へのアクセス方法

ここをクリック
してください

研修プログラム

精神神経科

千葉大学大学院医学研究科精神医学

教授 伊豫 雅臣 (昭59)

初期研修制度が始まってから様々な病院での研修が可能となり、精神科研修も同様となっています。一方で、世界標準の医療の実践が求められておりますが、

標準を指す医療機関は理論的には標準以下ということであり、研修施設として必ずしも適切ではないというところになります。ところで、近年精神医療は大きく変化しており、精神医療へのニーズも多様化してきています。それに迅速に対応できるのは標準を超えた精神医療機関であり、将来の精神医療を担う精神科医の後期研修はそのようなところで行われるべきだと思います。

私たちは「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらに良い医療を提供出来るように努力する」ことを理念に日々診療や研究、教育を行っています。日本ではここ数年、向精神薬の単剤化や認知行動療法が注目されていますが、当科で

は14、5年前からそれらに取り組んできております。その成果として、ドパミン過感受性精神病の治療法を世界で最初に開発することができ、また国のモデル事業にもなった千葉クロザピン・サターンプロジェクトなどがあります。認知行動療法では千葉認知行動療法トレーニングコースが設立されており、さらに千葉大学社会精神保健教育研究センターを設置し、精神鑑定や司法精神医療の研修や研究、また神経科学や地域精神医療の研究を行っております。附属病院にはこ

どものころ診療部を設置し、児童精神科医の育成や児童精神医学の発展にも力を入れております。また高齢社会に向けてせん妄の予防や治療に取り組むとともに、神経内科とともに千葉市認知症疾患医療センターの運営も行っております。当科ではこのように先進的な精神医療を長く実施してきて体制も充実しており、

様々な知識や技術を身に付けることが可能です。当科ではそれらを基盤に初期研修、後期研修、診療技術習得プログラムの三種の研修プログラムを設けています。初期研修では「せん妄への初期対応」を中心に他科の専門医になっても有用な知識や技術が習得できるようにしています。後期研修は最高レベルの精神科医になれるように、大学での1年程度の研修、特色のある連携病院での研修、そして大学に戻りチーフレジデントとして若手医師の指導を行いながら自身の精神医療の知識・技術をブラッシュアップするというプログラムになっております。診療技術習得プログラムへの参加者には希望の期間に希望する技術をチーフレジデント相当として習得していただきます。また後期研修修了者には千葉大学精神神経科ペーシック修了書、チーフレジデント修了者には千葉大学精神神経科アドバンスト修了書を授与しております。

情を勘案しながら研修プログラムを作成しておりますので、安心して研修できます。詳細は当科のホームページに記載してありますので、アクセスして頂ければと思います。

千葉県救急医療センター

病院長・千葉大学医学部臨床教授

小林 繁樹 (昭54)

千葉県救急医療センターは、千葉県全域を対象とする独立型の三次救命救急センターで創立から35年になります。循環器科、脳神経

科、神経内科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、形成外科、麻酔科、集中治療科等各分野の専門医が救急医療に特化した形で365日、24時間体制で勤務し、重症心疾患、脳卒中、大動脈疾患、多発外傷、重症頭部外傷、急性腹症等の重症救急患者の治療にあたっております。また、県内唯一の高度救命救急センターとして広範囲熱傷、指肢切断、急性中等等の特殊救急疾病患者の救命救急医療も行っております。

病床は、集中治療室(ICU、CCU、BCU)が20床、一般病床が80床の計100床で、各分野の専門的あるいは先進的医療、低侵襲医療を救命救急医療に積極的に応用することを基

本姿勢としております。患者さんの半数は他の医療施設からの紹介転院、半数が救急隊やドクターヘリからの直送で、年間約2000人の重症救急患者さんが入院し、緊急の手術、カテーテル治療、内視鏡治療等が約900件行われています。常勤医は約40名ですが、各科の協体制度が良いことが特長で、特に多発外傷の初期治療などでは内科系の医師も含めて総力をあげて救命に努めています。

もう一つ力をいれているのが災害医療で、自然災害のみならず、多重衝突事故・爆発・テロ・化学災害等の人的災害にも対応可能な災害医療センターをめざしており、DMAT(災害医療派遣チーム)も4隊編成が可能です。東日本震災にも出動しました。ドクターヘリの受入も年間約100件にのぼりますが、平成24年からは千葉市消防局の消防

へりを活用したDPU(Doctor Pick Up)方式の救急活動を千葉大学救急部と共同して行っています。卒後臨床研修は、まさにこのような施設の特徴を活かしたものです。すなわち、初期研修においては千葉県立病院群として、2から3ヶ月の救急研修を受け持っております。後期研修では14学会からの研修施設としての認定を活かして、種々の救急疾患の



初療、重症多発外傷から、心血管系、中枢神経系あるいは消化器系などの重症症例あるいは急性期症例を豊富に経験し、その診断、治療について専門医から集中的かつ多面的に学ぶことができます。また、集中治療室においては、呼吸・循環を初めとする全身管理から、血液浄化やPPCPS(経皮的肺補助装置)などの高度な管理まで勉強することも可能です。

研修医だより

後期研修体験談

千葉大学医学部附属病院
糖尿病・代謝・内分泌内科

永田 真依子(平24)



本学出身もしくは派遣の医師は、循環器内科：石橋巖(昭55、副病院長)、酒井芳昭(岡山大・平2)、松野公紀(平3)、佐野雅則(平7)、山岡智樹(平13)、宮山友明(平16)、木下康亮(金沢医大・平23)、橋本理(平24)、脳神経外科：小林繁樹(昭54、病院長)、宮田昭宏(昭62)、山内利宏(慈恵医大・平8)、松浦威一郎(愛媛大・平10)、木島裕介(香川大・平18)、伊東大祐(平22)、神経内科：古口徳雄(昭60)、鈴木浩司(札幌医大・平9)、心臓血管外科：沖本光典(昭50)、武内重康(昭56)、山口聖一(福井医大・平2)、藤田久徳(弘前大・平5)、外科：向井秀泰(昭62)、嶋村文彦(昭63)、整形外科：井上雅寛(平21)、菅野真彦(和歌山県医大・平21)、形成外科：村田八千穂(九州大・平15)、麻酔科：荒木雅彦(昭60)、稲葉晋(秋田大・平8)、山岸頌子(平22)、長谷川誠(平23)の29名です。(平成27年3月現在)

ののはな同窓会の意欲ある研修医を歓迎します。



この度、ののはな同窓会誌に体験談を寄稿することとなりました。一体験談として気軽に読んでいただけますと幸いです。私は、平成24年3月に千葉大学を卒業し、同年4月より東京都立墨東病院で2年間の初期研修を行いました。平成26年4月より千葉大学医学部附属病院内科の糖尿病・代謝・内分泌内科に入局し、大病院および近郊の千葉東大病院にて研修しました。千葉大学医学部附属病院内科の糖尿病・代謝・内分泌内科は、学生時から指導を熱心に行っていた科として有名でした。学生でも参加できる研究会を年に数回行っており、深い知識に触れることができ、とても刺激的で何度か出席したことを覚

えていました。初期研修の間に、将来専攻する科を明確に決めていた友人もいましたが、私の場合は内科にしようという以外はあまり明確には決まっておらず、秋までとても悩んでいました。そんな中、予防医学であり長期間患者さんに寄り添っていく糖尿病・代謝疾患や理論的に考えることのできる内分泌疾患に魅力を感じたことと、とても教育的な医局の雰囲気、そして何よりも医局員を育てようという愛情溢れる横手教授に惹かれて、入局を決めました。後期研修は、同じ旧第2内科であるアレルギー膠原病内科や、腎臓内科でも有名な国立病院機構千葉東大病院でも希望により研修を行うことができました。私の場合は、1年のうちで4ヶ月間は大病院の糖尿病・代謝・内分泌内科で研修を行い、2ヶ月間は同院アレルギー膠原病内科、半年間は千葉東大病院で研修させて

- 千葉県職員人事異動**
- 保健医療大学長 田邊 政裕(昭49)
 - 山武健康福祉センター長 大野由記子(東北大・昭57) (安房健康福祉センター長)
 - 救急医療センター 武内 重康(昭56) 診療部長
 - 当間 雄之(平7) 主任医長(新採)
 - こども病院 星岡 明(昭58) 副病院長(医療局長)
 - 青墳 裕之(昭55) 医療局長(診療部長)
 - 岩井 潤(昭53) 診療部長(小児外科部長)
 - 東本 恭幸(昭59) 小児外科部長(主任医長)
 - 落合 秀匡(平9) 主任医長(新採)
 - がんセンター 新行内雅斗(平5) 呼吸器内科部長 (主任医長)
 - 坂下 美彦(平3) 緩和医療科部長
 - 藤川 文子 主任医長(新採)
 - 中村 力也 主任医長(医長)

- 千葉県職員より退職**
- 山浦 晶(昭40) 保健医療大学長
 - 平井 愛山(昭50) 病院局理事
 - 高地 光世(日本大・昭49) 健康福祉部技監
 - 大島 龍男(昭60) 健康福祉部技監
 - 渡邊 敏(昭50) がんセンター診療部長
 - 沖本 光典(昭50) 救急医療センター診療部長
 - 高柳 正樹(金沢大・昭50) こども病院副病院長
 - 沖本 由理(昭50) こども病院血液腫瘍科部長
 - 循環器病センター 永野 修(新潟大・平11) 主任医長(医長)
 - 佐原病院 西森 孝典(平7) 主任医長(新採)

- 千葉市職員人事異動**
- 青葉病院 山本 恭平(昭57) 院長(内科統括部長)
 - 村上 正純(昭54) 副院長(診療局長)
 - 岡野 達弥(昭55) 診療局長
 - 志鎌 伸昭 (泌尿器科統括部長)
 - 地域連携室長(循環器内科統括部長) 安藤 克彦(群馬大・昭60) 医療安全室長(外科統括部長)
 - 田中 正(昭49) (市立青葉病院院長)

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp

学内情報

あのはな同窓会支援

白衣式祝辞

平成27年1月30日(金) 於 記念講堂

あのはな同総会会長

伊藤 晴夫 (昭39)

白衣式に臨まれた学生の皆さん、誠にお目出度うございます。ご家族の皆様のお喜び・期待も大きいと思います。また、教職員の皆様には、日頃のご指導に対して深く感謝致します。

皆さんは4年間の基礎的な勉強を終えて、これからは、Student doctorとしての生活が始まる訳です。この言葉はstudentではあるけれどdoctorであるという良い言葉だと思えます。Doctorであるという自覚と誇りを持って卒業までの2年間、医学の本質に触れ、また高い医療技術の吸収に努めて下さい。千葉大学医学部はスタッフの質だけでなく医療設備でも本邦最高水準だと思えます。この恵まれた環境で大いに勉学に努めて頂きたいと思えます。

さて、あのはな同窓会はこの白衣式には発当初より積極的な支援を致しております。このように有意義

な事業に対して支援出来ることは大きな喜びであります。特に、千葉大学医学部の歴史、伝統と理念を表すロゴの入った立派な白衣を皆さんに贈ることが出来ることを大変誇りに思っています。このロゴは医学部で古くより云い伝えられていました「獅胆鷹目行うに女手を以てす」を図案化したものです。皆さんは既にあのはな同窓会の学生会員です。積極的に同窓会活動に参加して下さい。最近ではあのはな同窓会報に加えて、オンライン会報の充実にも力を入れております。若い学生会員の皆さんの、この会報を通じての積極的な参加を期待しています。

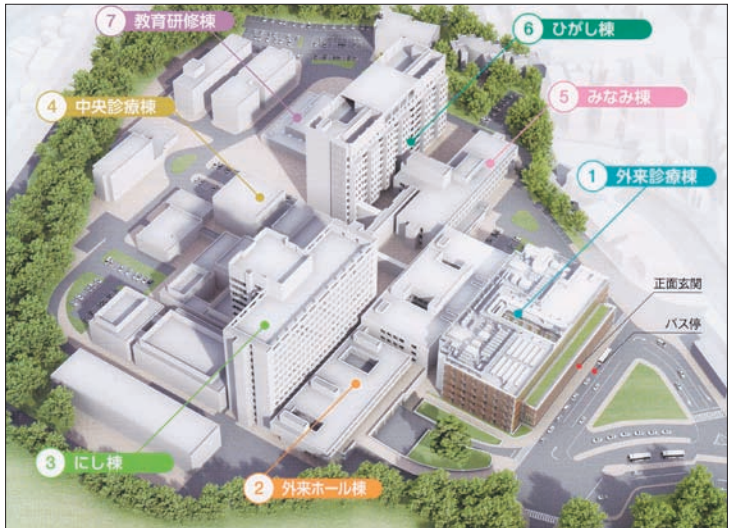
皆様方、すなわちご家族の皆様からも多額のご寄付を頂きました。あらためて厚く御礼申し上げます。記念誌の刊行に加え、千葉大学医学部理念の言語化も立派なものが出来上がりました。事業の中核である新あのはな同窓会館には千葉医学会、猪之鼻奨学会の事務室も入っています。この会館は学生・教職員など多くの方々にご利用されています。薬学部・看護学部など他学部の方も使用しています。合宿所もある同窓会館は、サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員・先輩達との交流を通じた人間形成の場となることにも大いに期待を寄せています。是非、積極的に活用されることを願っています。



第109回医師国家試験成績

試験日	平成27年2月7日(土)・8日(日) 9日(月)		
合格発表	平成27年3月18日(水)		
受験者	104名(新卒者 98名)		
合格者	102名	合格率	98.1%
	(新卒者 98名)	合格率	100%
参考	国立	合格者	4,409名
		合格率	91.8%
	全国	合格者	8,258名
		合格率	91.2%

千葉大学医学部附属病院 鳥瞰図



課外活動団体だより

準硬式野球部

主将 医学部3年 桑原 極

準硬式野球という知名度が低いかもしれませんが、医学部の野球では硬式野球よりもメジャーです。使う球は、内側は硬球と同じなのですが外側はゴムでできています。

準硬式野球部は医学部7人、薬学部8人、看護学部1人の選手と、5人のマネージャーの計21人で、毎週月水金の授業後に亥鼻野球場にて精力的に活動しています。若い学年の部員が多く、医薬看の学部が違う仲間と互いに協力し合い、少数ながら切磋琢磨し日々刺激のある練習をしています。

チームの雰囲気は、初心者に丁寧に見えることのできる部員も多く、思いやりがありアットホームなことが特徴です。チームの運営や新歓活動も積極的に部員同士で話し、チーム全体で考えることもあり、部員各々が意見を発信し、野球をする以外にも様々な事を学びながら成長している部活です。



のため残念ながら東医体には人数不足で参加することはできませんが、春秋の医科リーグ戦では現在I部リーグで、昨年の春は準優勝という結果を修めています。しかし、現在の医学部棟の耐震基準に不備があり、それに代わる新医学部棟が行われました。OB周りを

野球場に建設される可能性があるため、この先亥鼻野球場が使えなくなってしまうという恐れが生じています。いつ野球場が無くなっても後悔しないように精一杯部員一同練習に励みたいと、より一層思うようになりながらも、野球場が無くなるのはさみしいと感じる次第です。

話は変わりますが、高林克日己部長が医学部附属病院の副院長としての職務を全うされ、退官式が3月に行われました。OB周りを

野球場に建設される可能性があるため、この先亥鼻野球場が使えなくなってしまうという恐れが生じています。いつ野球場が無くなっても後悔しないように精一杯部員一同練習に励みたいと、より一層思うようになりながらも、野球場が無くなるのはさみしいと感じる次第です。

千葉大学医学部男子バレーボール部は、プレーヤー22名、マネージャー10名の32名で本村英明主将のもと、活動しています。毎週月曜日は16時30分から、火曜日は18時45分から、木曜日は18時30分から、木曜日のみ西千葉キャンパスの体育館を借りて、主に亥鼻体育館で練習しています。通常だと週3日、公式戦シーズンだと週4日、日々チームを強くするためにバレーボールに取り組んでいます。練習の内容としては、1年の締めくくりを8月の東医体に照準を合わせているので、秋は新チームの構成を練り、冬季はフットワークを中心にした個々人の基礎力アップトレーニングを行い、春季以降はチームの熟成をメインにした練習をしています。

男子バレーボール部

主務 医学部4年 岸本 真治

1年を通して参加している大会は、春季・秋季四校戦、春季・秋季関東医科リーグ、春季・秋季関東医歯

最近の公式戦成績としては、2014年度の東日本医科学生総合体育大会で4位、秋季関東医科リーグでは第3位、医歯薬リーグでは6位でした。夏を経て新チームとなり、まだ課題は山積みですが、これからの大会ではいい成績が残せるよう、日々練習に励んでいこうと思います。

らないような、より良き部活となるようにこれからも精進していきます。

OB・OGとの親睦を深めています。新歓には特に力を入れていて、初心者の人でも簡単に楽しめるバレーという競技を生かし、新入生を交えてバレーボール大会をしたり、バスツアーや動物園など様々なイベントを通して新入生との仲を深めています。2014年度も男子部には男女合わせて12人の1年生(プレーヤー5人、マネージャー7人)が入部し

てくれました。人数も以前と比べるとかなり多く、部員同士の仲のよさにも自信がある部活です。バレーをすることだけにどまらず、心から信頼し合える友ができる場としての部活をこれからも大切にしていきたいと思います。ボール部への変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



亥鼻総合美術部 白鯨社

副社長 医学部4年 高野 沙唯

白鯨社は創社100年近い歴史を誇る亥鼻総合美術部です。隆盛と衰退を繰り返し、現在5人の幹部メンバーを中心に活動しています。

活動内容は、日々の創作活動。気ままに集まり、お互いの作品に感化されながら自分の個性を磨いています。秋には亥鼻祭にてグループ展を行い、たくさんの方に作品と触れ合っていました。

また、年に二回ほど日本の美術館を巡る旅をしています。今年の春にはシャガールの水彩画、夏には雄大な自然に佇む彫刻群に触れました。山本麻琴前社長・高山明日香前副社長が名前だけの存在と化していた白鯨社を2012年に復興し、今では亥鼻祭のポスターやパーカーデザイン・外部展覧会への出展・SNSを通じて創作活動など実力派社員をもとにアクティブに活動しています。

①(画・吉元将也社長)フアンタジックなストーリーリを盛り込んだ細密画は主に若い女性の方に人気です。花や猫、動物やどこか懐かしい風景など、鋭い観察眼を通して細かに、そしてどこか心温かくなるような作品を製作しております。

②(画・高野)喫茶店の紙ナプキンに点描し続けて1年。「絵の1つ1つが物語」をモットーに、ちよつと奇妙な世界のちよつと奇妙なワンシーンを描いています。シャガール、稲垣足穂、中原中也、星に猫に傘の街並み、大好きです。

③(画・斎藤有紀専務)硝子のような繊細な風景は、若い方に人気です。編み物のように展開される心優しいワンシーンは、幼い頃に心に描いた風景とどこか似ているのかもしれない。

一本の筆が運ぶ息遣いや、一つの点が生み出す躍動感。視覚のみならず聴覚や嗅覚も刺激される芸術は、文字のない小説・動かない活劇・声のない歌のようなものです。目だけでなく、心にも訴える作品を創れないかと、社員一同日々精進しております。

医学の「アート」と芸術の「アート」。この二つが交差する白鯨社は、普段は他の部活と兼部している人も多く、「白鯨社」の割に社訓もなく、各々が自由に活動しています。現在はイラスト・現代美術・日本画に通じた部員で構成されています。



①(画・吉元将也社長)フアンタジックなストーリーリを盛り込んだ細密画は主に若い女性の方に人気です。花や猫、動物やどこか懐かしい風景など、鋭い観察眼を通して細かに、そしてどこか心温かくなる



千葉ぬいぐるみ病院

代表 医学部4年 新 真大

千葉ぬいぐるみ病院は、現在(2015年2月時)医学部6年生の永久保芽香さんが設立されたサークルです。小児分野における公衆衛生の向上を目的としており、具体的な活動として、絵本や劇などを通して保健教育を行ったり、「ぬいぐるみ病院」という名前にあるように、子どもたちが連れてきたぬいぐるみを、疾患を患った、彼ら彼女らの子どもと見立て、学生らは病気を抱えたぬいぐるみを診察し治療を行う医療者の役として、模擬診察のロールプレイングを行います。このロールプレイングでは、医療機関・医療者に対する子供たちの恐怖感を取り除き、ぬいぐるみの診察・治療を通して子どもたちが自分自身の体と健康に関心を持つことが期待されています。

去年の5月には「児童虐

待を含む、社会的支援や医療支援を必要とする子どもと家族について」をテーマに、児童相談所に勤務している花田あゆみさんと、発達障害児の看護を専門として千葉科学大学看護学部で教鞭をとられている市原真穂先生の講演会を行い、花田あゆみさんからは現場で向き合っているからこそわかる現実とそれに伴う心情について、市原先生からは、専門家の持つ客観的な視点から多くの事例を踏まえて話を伺うことができました。また、8月には亥鼻キャンパスの近くに

ある亥鼻保育所、9月には千葉大学附属幼稚園にてぬいぐるみ病院の活動を実施し、保健教育の内容としては、「食育」を採用し、劇や替え歌を通して、好き嫌いや栄養を取り、バランスよく伝えることができました。11月の亥鼻祭においても、例年同様ぬいぐるみ病院は出展し、今回は体の主に消化器系の機能について楽しみながら学べるアトラクションをサークルとして製作しました。1月には新規ぬいぐるみ病院実施先として、西千葉にある翠幼稚園でも活動を行い、大変ご好評をいただきました。



亥鼻保育所にて模擬診察中



亥鼻保育所にて食育の劇

ました。
ぬいぐるみ病院という活動は千葉大学以外でも行われており、最近ではそういった他大学のぬいぐるみ病院サークルの活動を見学あるいは協力するという試みも、千葉ぬいぐるみ病院では行われ始めており、なおいつそう活動の盛り上がりを見せております。
学生時代から小児の健康とその医療に関心を持ち、仲間と共に学習し、自分たちには何ができるのかを考

えるのは非常に貴重な機会であり、またかけがえのない経験です。元気な子供たちからエネルギーを貰いつつ、それらを糧として私たちもしつかりと意義のある活動を行っていきたくと考えております。
末尾になりますが、OB・OGの皆様方には、今後とも千葉ぬいぐるみ病院の活動が長く続きますよう、暖かく見守っていただければと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

雑文雑談 高藤山

石出猛史(昭52)

外房線の上総一宮駅から歩いて数分、国道128号線に面して玉前神社がある。規模はそれほど大きくはないが、上総国の一宮である。拜殿の向かいに一基の石碑がある。上総権介広常の事蹟を記したものである。広常は、平安時代末から鎌倉時代初期にかけての、上総の大豪族である。

6・平治の乱(1159)では、常胤と共に頼朝の父源頼義に従って参戦した。広常は、寿永2年(1182)12月、頼朝が主催した双六大会に出席した際、同席していた梶原景時に、背後から斬り付けられて暗殺された。

暗殺の理由は明らかではない。傲慢で、頼朝に下馬の礼をとらなかつたためとも、頼朝が広常の強大な軍事力を警戒したためとも言われている。広常の嫡男良常が自害したために、上総氏は絶家となった。

頼朝は後に、広常が頼朝の折願成就と東国泰平を願って、玉前神社に胃一領を奉納し、神田の寄進と神殿造営を約束していたことを知り、暗殺を後悔したといわれている。
玉前神社から南西に2km程下った場所に、標高80mの高藤山がある。広常の居館があったとされている山である。すぐ西は陸沢町に隣接している。非常に判り辛い場所です。「高藤山城址」という案内板がなければ、登り口は判らない。

上総氏は良文系平氏の一支部で、千葉氏と同様に平忠常(上総介)の子孫にあたる。忠常の嫡子常将が初めて千葉を称したとされているが、その三代あとの常重の嫡男が常胤である。上総氏は、常重の弟常家を祖として、代々上総の国の権介に任ぜられている。
治承4年(1180)、伊豆で平氏打倒の兵を挙げたが、石橋山の合戦に破れて安房に逃れてきた源頼朝のもとに、一族三百騎を率いて最初に参陣した豪族が、千葉介常胤である。2万の大軍を率いて遅れて合流した広常を、頼朝はなかなか許そうとはしなかつたといわれている。
広常は保元の乱(115

二代藩主久徴は、大番頭・講武所総裁・奏者番・若年寄などの幕府の要職を歴任した。文久3年(1863)の九十九里騒動に際しては、幕命により真忠組の討伐にあたつている。
四代藩主久宜は、明治に入つて、岩手県師範学校初代校長・大審院検事・貴族院議員などを勤めた。明治27年(1894)鹿児島県知事に就任。農会の設立、鉄道敷設、港の近代化などをを行い、また全国で初めて小学校の授業料を無料化して、就学率を全国のトップ

狭い山道を登っていくと、左手は急峻な斜面である。山頂は比較的広い平坦地で、広常の館があった主郭の跡と考えられている。文久2年(1862)、当時の一宮藩々主加納久徴が、広常の事蹟を記して建立させた「高藤山古蹟碑」がある。
高藤山には、現在郭と堀切りがそれぞれ七カ所ずつ確認されているが、これらは戦国時代のものである。
文政9年(1826)一宮町に加納氏の陣屋がおかれ、一宮藩(一万三千石)が成立した。以後加納氏の本貫地となった。料所は、両総に16カ村、上野に3カ村、伊勢に15カ村の計34カ村であった。

プレベルに引き上げ、西南戦争後疲弊していた鹿児島県を活性化させた。
後には、一宮町の町民から請われて一宮町の町長も勤めた。ここでも農業・畜産の振興、耕地整理、別荘の誘致、海水浴場の設置、一宮女学校の開設などの実績をあげた。大正8年(1919)2月卒。享年74歳。
一宮町の城山に分骨されている。
明治の千葉県には、地元民へ農業指導を行い、現在の県立佐倉高校を設立した。元佐倉藩々主堀田正倫など、民政に尽力した殿様たちがいた。

～まさかの休業への備え～

東京海上日動が提供する超ビジネス保険の

地震休業補償

「開業されている」もしくは「開業される」先生方には、「会員総合補償制度」だけでなくこちらも必要です。詳しくは㈱パイオニアまでご連絡下さい。

<連絡先>
㈱パイオニア 電話:0120-36-8442

『信頼されるドクターへ 選ばれるクリニックへ ——』

Dr.向け医療開業セミナー 随時開催中!!

詳細はこちら →

(株)MBS

〒106-0047 東京都港区南麻布1-27-36
TEL:03-5879-7733 FAX:03-5879-7733

会員から

欧州医学史巡り — ウトレヒト —

杉田 克生 (昭54)

オランダの首都アムステルダムから列車で30分ぐらい南下した所に Utrechト市がある。スペインからのオランダ独立戦争(1568-1648)の最中、北部7州が団結し Utrechト条約が1579年に結ばれたのが、現在の Utrechト大学本館内のホールである。

そこから7、8分歩いた所に、Utrechト大学博物館がある。親子連れで科学実験コースも開かれており地域に開かれた大学として努力している。博物館としては、大学と関係ある医療器具、化学器具が時代別に並べて展示され科学史が学べるようになっているとともに、ヒトや他の動物の解剖標本などが臓器別に展示されている。骨格標本(シヤム双生児、水頭症、くる病他多数)、「うしの心臓」と称された人の肥大心臓、皮膚結核などの写真、こどもの全身X線像(1926年撮影)など日本では一般公開されないと思われる展示物が親子で見学できる博物館である。

Utrechト陸軍軍医学校

の教官で、その後 Utrechト大学教授となった Donald R. の眼科書なども展示されている。来日したオランダ医として有名なポードイは、先輩の Donald R. と共同で ヘルムホルツの検眼鏡を改良した。その検眼鏡を、ボンペが1861年日本に持参している。ボンペ以降、1880年代までに14名のオランダ人医師が来日しているが、その中で10名は当時オランダで唯一の軍医学校であった Utrechト陸軍軍医学校出身者である。それまでは職人として徒弟制度で養成されたギルド的の外科医とラテン語を介して大学教育を受けた学者的内科医が併存した。それらを融合させた医学が、当時ヨーロッパ各地の陸軍軍医学校で初めて教えられ始めた。

ちなみに大正年間に官立の単科医科大学に昇格した

日本の地方医科大学を「旧6」と呼ぶが、千葉以外の5校は幕末維新にオランダ医が教鞭をとっている。なお旧 Utrechト陸軍軍医学校も Utrechト大学本館から歩いて4、5分の所にあつたが、現在はグランドホテルカルルV世として利用されている(写真)。なお Utrechトを訪問された際は、Utrechト大学(Utrecht University) キャンパスにある大学図書館を訪問されることをお勧めします。大イヴェント会場たる近代建築物にも圧倒されるが、そこにはオランダ

語訳「ターヘルアナトミア」が保管され、あらかじめ依頼しておけば手に取って見ることが出来る。B5判サイズの意外と小さな本であつたが、近代日本医学のバリエーションを手にした感動を是非体験してみてください。

なおおのの同窓会オンライン会報では、欧州医学史巡りを毎年秋に企画しております。今年度はスペイン医学史の旅を計画中ですが、ご関心のある方はオンライン会報「国際交流」欄をご覧ください。



旧 Utrechト陸軍軍医学校の建物

第91回千葉医学会学術大会

日時：平成27年7月30日(木曜日) 16:10より
会場：ののほな記念講堂

特別講演 「一生化学者の歩み—実験研究の指針を求めて—」

演者：橘 正道 先生 (千葉大学 名誉教授)
座長：野村 文夫 先生 (千葉大学 名誉教授 / 千葉大学医学部附属病院 マススペクトロメリー検査診断学部門 客員教授)



橘 正道先生

招待講演 「ゲノムとエピゲノム—その異常と癌—」

演者：金田 篤志 先生 (千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学 教授)
座長：瀧口 正樹 先生 (千葉大学大学院医学研究院 遺伝子生化学 教授)



金田篤志先生

参加手続き及び費用は不要

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます

問合せ：千葉医学会 (〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内)
TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757
E-mail: info@c-med.org URL: http://www.c-med.org

平成27年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後研修プログラムとして、5種類（総合重点、専門重点、学究重点、産婦人科、小児科）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（総合重点プログラム）、1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（専門重点プログラム）、1年目・2年目共に大学病院で研修する方式（学究重点プログラム）、その他である。

さらに、2年間の卒後臨床研修修了後は、卒後臨床研修と連携した各診療科のシニアレジデント（後期研修）プログラムにより、専門医取得を目標とした研修をシームレスに受けることができる。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大学医学部附属病院I	国立病院機構千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	3	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	2
千葉大学医学部附属病院I	千葉大学医学部附属病院	千葉市立青葉病院	1	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2
千葉大学医学部附属病院I	千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	1	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	2
千葉大学医学部附属病院I	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	1	名古屋掖済会病院	名古屋掖済会病院	名古屋掖済会病院	2
千葉大学医学部附属病院I	千葉労災病院	千葉大学医学部附属病院	1	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	1
千葉大学医学部附属病院II	東京都立墨東病院	千葉大学医学部附属病院	2	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	1
千葉大学医学部附属病院II	君津中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	国立病院機構東京医療センター【一般】	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1
千葉大学医学部附属病院III	聖隷横浜病院	千葉大学医学部附属病院	1	国立国際医療研究センター病院内科系	国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	1
東京大学医学部附属病院A	東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院	2	国立国際医療研究センター病院外科系	国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	1
東京大学医学部附属病院B	焼津市立総合病院	東京大学医学部附属病院	1	東京警察病院	東京警察病院	東京警察病院	1
東京大学医学部附属病院B	東京大学医学部附属病院	東芝病院	1	日本赤十字社医療センター小児科	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	1	日本赤十字社医療センター内科	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
東京女子医科大学病院	東京女子医科大学病院	東京女子医科大学病院	1	東京都立多摩総合医療センター	東京都立多摩総合医療センター	東京都立多摩総合医療センター	1
東京女子医科大学八千代医療センター	東京女子医大科学八千代医療センター	東京女子医科大学八千代医療センター	1	東京都立松沢病院	東京都立松沢病院	東京都立松沢病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	7	東京都災害医療センター	東京都災害医療センター	東京都災害医療センター	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	5	公立昭和病院	公立昭和病院	公立昭和病院	1
国保君津中央病院群	国保君津中央病院	国保君津中央病院	5	虎の門病院産婦人科	虎の門病院	虎の門病院	1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	3	東京都豊島病院	東京都豊島病院	東京都豊島病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	3	荻窪病院	荻窪病院	荻窪病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	3	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	1
千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	3	さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	1
千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	3	川口市立医療センター	川口市立医療センター	川口市立医療センター	1
松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	3	戸田中央総合病院	戸田中央総合病院	戸田中央総合病院	1
国保旭中央病院総合	国保旭中央病院	国保旭中央病院	3	豊川市民病院	豊川市民病院	豊川市民病院	1
国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	2	諏訪中央病院	諏訪中央病院	諏訪中央病院	1
成田赤十字病院小児科コース	成田赤十字病院	成田赤十字病院	2	佐久総合病院	佐久総合病院	佐久総合病院	1
東京ベイ・浦安市川医療センター	東京ベイ・浦安市川医療センター	東京ベイ・浦安市川医療センター	2	十和田市立中央病院	十和田市立中央病院	十和田市立中央病院	1
東京通信病院	東京通信病院	東京通信病院	2				

平成26年度 第2回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成26年11月12日 (水) 18時より
場所：東京ステーション
コンファレンス

出席者

- 伊藤晴夫 (会長)
- 大井利夫 (副会長)
- 濱野雅彦 (副会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 秋葉哲生 (会計監事)
- 田中 光 (会計監事)
- 税所宏光 (参与)
- 青木 謹
- 岡本和久
- 加部恒雄
- 宍倉正胤
- 幡野雅彦
- 森 豊
- 吉原俊雄
- 忍頂寺紀彰 (敬称略)

号分の支払いが終わったこと、同窓会館設立事業では、建設費用の支払いは終わったが、建設に関する他の支出、竣工式のDVD代・おのほな同窓会館掲載の建設雑誌別刷り代・卒業アルバムデジタル化等の支出があったことが報告された。

(2) 広報編集関係
鈴木信夫副会長より、同窓会報168号は12月末に発送予定であることが報告された。

(3) おのほな同窓会活性化のための提言
秋葉哲生理事より、資料に基づきおのほな同窓会活性化委員の提案について説明があった。2023年(千葉大学医学部が旧千葉医専設置から数えて100周年を迎える)までに千葉大学をさらに活性化させるため、おのほな同窓会としての行動計画の提言であること。

1. 報告事項

(1) 予算執行状況(中間報告)について
幡野雅彦理事より資料に基づき26年度の間決算について説明された。収入は、ほぼ予定どおりであること、支出では、会報会誌に関して会報年3回発行のうち2

向上を目標とすることが説明された。

討議の結果、今後については今回の提言に基づき、吉原俊雄理事が委員長を務める将来検討委員会を中心に法人化を視野にいれることも検討することが承認された。将来検討委員会には、活性化委員会のメンバーを始めとした委員の参加をのり委員数を拡大して検討を進めていく事が了承された。

2. 協議事項

(1) 役員会務分担について
白澤理事より、資料に基づき会務分担について説明があった。地区おのほな会の新会長、埼玉おのほな会会長・吉川広和氏、茨城おのほな会会長・中田義隆氏、静岡おのほな会会長・忍頂寺紀彰氏から挨拶をいただいた。忍頂寺紀彰氏、中田義隆氏の来年度の総会での理事承認が了承された。役員改選の来年度の人事については、会長・副会長に検討を依頼し、2月の常任理事会で役員候補を提案することが了承された。

(2) 総会開催日程について
平成27年度の総会開催日は、候補日の第2土曜日6月13日と決定した。担当は東京おのほな会となっており、開催場所等を一任することが了承された。

ことが了承された。

(3) メモリアルウォール建設について
白澤理事より、資料に基づきメモリアルウォール建設計画について説明があった。建設資金についての寄附方法(名前を冠する個人寄附、各講座・医局からの寄附)について、建造物の名称について検討することが了承された。

(4) 入会登録について
白澤理事より、資料について説明があり大学入学手続き時の書類にのみおのほな同窓会の入会案内が同封されるようになり入会率が上がっていることが報告された。入会登録については卒業時に正会員として登録してもらい、同窓会員の自覚を促すようにすることが提案され、了承された。

平成26年度 第3回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成27年2月12日 (木) 18時より
場所：東京ステーション
コンファレンス503B室

出席者

- 伊藤晴夫 (会長)
- 大井利夫 (副会長)
- 濱野雅彦 (副会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 秋葉哲生 (会計監事)
- 田中 光 (会計監事)
- 税所宏光 (参与)
- 青木 謹
- 岡本和久
- 加部恒雄
- 宍倉正胤
- 幡野雅彦
- 森 豊
- 吉原俊雄
- 木下 昌 (敬称略)

伊藤晴夫会長の挨拶の後、千葉大学医学部附属病院院長山本修一氏から千葉大学卒業生の進路について、同窓の先生方に対する附属病院の先生方に対する対応について、医学部本館改築について等の説明があり、附属病院の受診については病院事務にて更に検討することとなった。また、クラス会時の附属病院見学については事前連絡があれば対応可能であることが説明された。その後、伊藤会長が座長となって議事が進められた。

間決算報告があった。収入について会費収入は例年どおりであること、3年に1度発行ののみおのほな同窓会名簿の広告掲載による収入があったこと、支出について会報・会誌の印刷費は頁数が多かったために予算を超えたこと、IT広報関連事業費が予算を超えたこと等について報告があった。

(2) 広報編集関係
鈴木信夫副会長より次回おのほな同窓会報の発行は5月12日を予定していることが報告され、原稿は例年どおり集まっていることが報告された。

2. 協議事項
(1) 平成27年度行事予定
田邊政裕理事より資料に基づき、以下の行事予定が承認された。

平成27年4月15日(水)、平成28年2月10日(水)、11月19日(木)

(水曜、木曜、交互の開催)

平成27年6月13日(土) 会報発行
平成27年5月、9月、平成28年1月
同窓会賞決定
平成27年4月15日(水)

1. 報告事項
(1) 予算執行状況(中間報告)について
幡野雅彦理事より資料に基づき、平成26年度の中

され、濱野副会長より担当は東京おのほな会、開催場所は銀座アスターお茶の水水館とし、講演は稲葉憲之獨協医科大学学長に依頼し、内諾を得ていることが報告された。

(3) 役員交代について
田邊理事より資料により平成27年度の新理事について説明があり承認された。

大井利夫副会長より平成27年度の役員選出について前回の常任理事会にて現会長・副会長に検討を一任された事の説明があり、会長は濱野高徳氏(昭45)、副会長は吉川広和氏(昭40)、鈴木信夫現副会長(昭47)、吉原俊雄氏(昭53)の推薦があり総会に諮ることが承認された。内藤威常任理事(信州おのほな会) 退任のため信州おのほな会に常任理事推薦を依頼することとした。

(4) 平成27年度予算編成
幡野理事より資料により昨年の予算と異なる点について説明があった。白衣式助成金はDVD制作代を増額して60万円とすること、留学生交流会の支援は他学部からの支援もあり減額して10万円とすること、IT広報関連事業費については数年の予算オーバーのため120万円に増額すること等が説明された。

(5) 将来検討委員会
吉原俊雄理事より、(1) 将来検討委員会委員14名について説明があり承認された。
(2) 委員会の名称は「将来検討委員会」とすることが承認された。(3) 常任理事会への委員の出席については、オブザーバーとして必要に応じて理事会からの要請あるいは委員会からの要望に応じて出席することが承認された。(4) 中長期的な方針として法人化、組織改変(5) 短期的・具体的な提案として同窓会HPで「P」作成、WEB同窓会等の提案が説明された。今後、将来検討委員会にて検討を重ね、具体的な方策等を常任理事会に提言する事とした。また、今後の課題として支部、常任理事、評議員の関係性等を検討する事、学生時代から同窓会の活動に参加できるように企画立案を検討すること等が提案された。

(6) 表彰について
千葉大学卓球部合宿中の事故により学生時代に全身麻痺となり、その後、寝たきりの方が最近逝去された。事故後から50年近くにわたらずと面倒をみていた卓球部の当時の主将、同級生等と同窓会にて表彰する事が承認された。ゐのはな同窓会特別賞として総会にて

表彰することとなり、表彰の副賞等については済陽副会長が受賞者と相談のうえ決定することとした。

平成27年度 医学部入学者

秋山 倫人	雨宮 佑樹	田中 芳樹	塚本 悠太
新居 和真	池 瞳	辻本 慈瑛	筒井 友香
石川 茉莉	石木田修平	照屋 善太	時友 陽菜
井関 健人	伊藤 綾香	富沢 寛	中曾根広拓
伊藤 志帆	伊藤 美羽	南学 正仁	難波 恵
伊藤 康彦	井上 貴登	西村 紬希	新田 直久
上田 聖	浦上 尚也	二瓶 豪崇	花田 直久
海野 豪志	易 安剛	花山 聡紀	濱木 周平
榎並 奏	大澤 翔太	原 直輝	原田 悠斗
大塚 航	大八木宏樹	菱川 慎吾	深谷 美柚
大山 真由	岡本 健人	福島 弘高	藤崎綾衣子
萩野 智大	小澤 健人	堀越 裕介	前田紘一郎
小田 光陽	越智 敦彦	松田 和暁	松田 光生
小原 哲也	柿元 綾乃	松田 耕平	松田晋太郎
春日憲太郎	片山 湧斗	松山 稔矢	丸島 亮輔
加藤 夕貴	金谷 崇伸	水野 大輝	溝口 孟
上條恵莉子	川田 康貴	宮川久弥恵	宮崎 光浩
川本 夏輝	菊池 暢行	村蕃 龍一	村瀬摩希子
岸田 浩輝	岸野 圭牙	村田 桜子	室伏 美里
黒坂 英司	小出倫太郎	森 亮太	森本 大
小茅生直輝	児玉 悠貴	八木はるか	八木 耀平
小松 洋介	迫 泰生	柳澤真理恵	山崎美智子
佐糺 楓	佐宗 薫	山野博基	湯田夏奈子
佐藤 奈緒	佐藤 玲紋	横山 雄大	李 昇讚
佐野 恭平	塩川菜以子	良沢 玲	六田 祐亮
志田 明音	篠原 雅貴	渡邊 悠斗	
柴田 修平	志村 和佳		
下田 星騎	下野 純		
須澤 綾友	鈴木 詢也		
鈴木 隆	鈴木 康高		
角田 大尚	高橋 大輝		
高橋 大司	竹内彼野音		
多田 健太	田中 一真		



平成27年度 大学院入学者

- 博士課程
 - 【整形外科学】金勤東
 - 【環境労働衛生学】小倉康平
 - 【公衆衛生学】横田千尋、THIA KYAW
 - 【呼吸器内科学】山岸一貴、三輪秀樹、鈴木健一、木下拓、田中望未、佐々木茜、山本慶子
 - 【和漢診療学】龍興一
 - 【認知行動生理学】吉田齋子、熊谷将志、林三千恵、荒木謙太郎
 - 【眼科学】秋葉龍太郎
 - 【脳神経外科学】奥山翼
 - 【神経内科学】大谷龍平、仲野義和
 - 【分子ウイルス学】堀田千恵美、WIN WENAN
 - 【泌尿器科学】杉浦正洋、新井隆之、山本賢志
 - 【小児外科学】秦佳孝
 - 【細胞治療内科学】高石浩司、栗田憲市、林愛子、加藤尚也、一色佑介、熊谷仁、田村愛
 - 【臓器制御外科学】中川綾子、杉浦謙典、若澤陽介、升田貴仁、金美玲
 - 【分子病態解析学】北村浩一
 - 【生殖機能病態学】佐藤明日香、徐琳琳
 - 【遺伝子制御学】福田匡志
 - 【免疫発生学】菅野敏生、根川真実
- 原甫
 - 【小児内科学】青木孝浩、池原甫
 - 【整形外科学】菅野真彦、真崎藍、繩田健斗、瓦井裕也、北村充広、三浦道明、秋本浩二、井上雅寛、吉野謙輔
 - 【耳鼻咽喉科学】中川拓也、米田理葉
 - 【救急集中治療学】高橋希、柄澤智史
 - 【腫瘍内科学】石川賢太郎、石神智行、明杖直樹、前田隆宏、日下部裕子、飯野陽太郎
 - 【精神医科学】岡東歩美
 - 【放射線医学】和田武
 - 【呼吸器病態外科学】豊田行英、畑敦
 - 【心臓血管外科学】乾友彦
 - 【循環病態医科学】木下康亮、仲野美代
 - 【臨床分子生物学】林文彦、岡則智、和賀井翔、廣嶋一哉、永塚啓太郎
 - 【先端応用外科学】澤田尚人、武藤靖英、横山将也、大塚亮太、天海博之、高橋有未子、荒澤孝裕、渡邊裕樹
 - 【医療行政学】鷹見明奈
 - 【分子腫瘍生物学】ALAGA RSWAMY KOKILADEVI
 - 齋藤慈 Nguyen Thi Thanh
 - Thao Zhong Boya 吉澤康博



同窓会館と桜

- 【放射線治療学】横岡由姫
- 【診断病理学】太田昌幸
- 【免疫制御学】高野淳一朗
- 修士課程
 - 【環境生命医学】川波重紀子、金赫玲、志賀里美、中島諒太
 - 【公衆衛生学】井添由香子、田中紀子、寺内萌、服部昌美
 - 【認知行動生理学】岡本洋子、林佑太
 - 【代謝生理学】西本航
 - 【分子ウイルス学】馬雪
 - 【病原細菌制御学】竹内裕紀
 - 【細胞治療内科学】笠原千尋
 - 【分子病態解析学】GÜZHANUER AILIKEN姚ヤク
 - 【免疫発生学】小久保幸太、中嶋隆裕
 - 【疾患生命医学】小林茉結
 - 【分子腫瘍生物学】小形武広、中村瑞代、松下雅司
 - 【臨床感染症学】大口弥里
 - 【微生物資源学】六戸絵里香
 - 【感染免疫学】伴万里江
 - 【公衆衛生学】今井正太郎、北村優
 - 【免疫制御学】神久子

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



インターネットサイトであるオンライン会報では、**病院紹介**、**みのはな同窓会員が経営する病院・医院・診療所の紹介**をしております。千葉県内での経営の場合、千葉日報への掲載も連動させております。オンライン会報での紹介をご希望の会員の先生は、みのはな同窓会本部へお申し出ください。なお、開院・開所を目指している先生方にお役にたつ情報を盛り込むようにもしております。

一方、**求人・求職**では、医師募集欄も掲載しております。募集広告の掲載をご希望の会員は、ご寄稿も含めてご利用ください。また、みのはな同窓会員が執筆した書籍の紹介もしております。著者へのインタビューを加えることにより、書籍の内容をより深く理解できるように、配慮しております。すでに、発刊済みの書籍がある会員で、オンライン会報での紹介をご希望の先生は、みのはな同窓会本部へお問い合わせください。

本紙面では、以上の番組例をオンライン会報のトップページなどより転載してお示しします。どうぞ、ヤフーやグーグルなどから、オンライン会報と検索して各番組の動画をご覧ください。

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。
>>ダウンロード >>インストール方法
ただし「*Mac/スマホ対応*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

オンライン会報 総合目次

- ・病院紹介
- ・求人・求職
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・話題
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・キャンパス便り
- ・「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・協賛企業からのお知らせ

求人・求職 ▶ 求人・求職の一覧はこちら



NEW
地域と知に未来を紡ぐ
 独立行政法人地域医療機能推進機構
 船橋中央病院
 院長 高橋 誠
 医師募集内容 (PDF55KB)
 ▶ **WEBサイト**
 [2015.02.10掲載]

オンライン会報の取材編集に貢献して頂ける先生を募集しております。参画可能な先生は、取材や編集作業などについての詳細を同窓会本部までお問い合わせください。



浅野誠院長

「心は他人との関係
また原因不明の体調不良に悩んでいる方が気軽に来院できるよう配慮している。回復後も社会適応するためのあらゆる支援に取り組むという。」



桜並木心療医院の診療風景

桜並木心療医院

臨床医療40年の経験と知識を生かす

街のお医者さん 地域病院 医院紹介

作家、画家など芸術家の顔を併せ持つ浅野誠院長は研修時代、閉鎖病棟が当たり前の時代、閉鎖病棟に疑問を抱いた患者さんを見て、これは「狭い病棟に閉じ込められた患者さんを見て、これはおかしい、変えなければと感

◆診療案内▽診療科 内科
 受付時間 火曜・木曜9時、水曜9時、土曜9時、日曜9時、月・金・日の祝日休診日 千葉市花園1-19-2 電話 043(37)2126

◆浅野誠院長プロフィール
 05年、千葉県精神医療センター長。12年、「医療功労賞」受賞。14年、桜並木心療医院を開設。

◆浅野誠院長インタビュー
 05年、千葉県精神医療センター長。12年、「医療功労賞」受賞。14年、桜並木心療医院を開設。

■同窓会会員経営の病院・医院・診療所の紹介



地域の「かかりつけ医」役割
を目指して
すぎおかクリニック
院長 杉岡 充爾

- ・「小回り」が利く心臓・血管専門医 ▶映像を見る
- ・オーダーメイド・サプリメント ▶映像を見る
- ・医師としての立位置を決めてから開院 ▶映像を見る
- ・プラス思考で、安心領域の殻を突破 ▶映像を見る

▶ WEBサイト

[2014.12.16掲載]

* Mac/ スマホ対応 *



電子カルテを活用しての
医院経営
のみら耳鼻咽喉科
院長 野村 知弘

- ・独自システムを付加して医療業務改革 ▶映像を見る
- ・受付から会計、レセプト印刷 ▶映像を見る

[2014.7.25掲載]

* Mac/ スマホ対応 *



開業のいきさつと電子カルテ
導入の経緯
本千葉小児科
院長 安田敏行
[2014.7.25掲載]
* Mac/ スマホ対応 *



診療業務改革は、電子カルテ
の導入で促進!!
みうらクリニック
理事長 三浦正義
[2013.12.24掲載]
* Mac/ スマホ対応 *

■話題



開業医向け電子カルテの
最新情報
伊藤賢司
(南光台伊藤クリニック院長)
[2013.11.11掲載]
* Mac/ スマホ対応 *

■インタビュー



クリニック設計に携わる
設計事務所の機能と役割
関根 裕司
(有限会社アルボス代表取締役)

1. 医療を知らずして設計なし ▶映像を見る
2. 設計事務所のコンサルティング機能 ▶映像を見る
3. 設計事例
 - ・サークル・ウォールに生命力を込める
新島内科クリニック映像を見る ▶映像を見る
 - ・中待合スペースを充実
西荻クリニック映像を見る ▶映像を見る
 - ・天井高さを生かしたふたつのユニークな
診療室
たけぶちファミリークリニック ▶映像を見る
4. 開院事業収支計画のフィジビリティスタディ ▶映像を見る

[2014.11.14掲載]

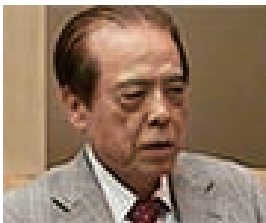
* Mac/ スマホ対応 *

■オンライン書庫

【書籍】

掲載書籍をご覧になりたい方は同窓会本部へご連絡ください。

1. 会員著書



前立腺がん健康長寿に関する著書の紹介

伊藤晴夫 (千葉大学名誉教授)

- ・前立腺がん予防法 ▶映像を見る
- ・イラストでわかる前立腺がん ▶映像を見る

[2014.7.30掲載]

* Mac/ スマホ対応 *

お く や み

滝謙太郎(専25)
加倉井登(専25)
山口光弘(専24)
篠本直(専24)
田辺邦彦(昭24)
佐々木宣明(昭24)
平沢顕一(昭23)
林易(昭23)
宇佐美勉(昭23)
渡邊喜代(畜医専・昭20)
馬場理一(慶応大・昭20)
吉田良夫(昭19)
兒嶋喜八郎(昭17)

中村憲三(専25)
中野(人見)正義(専25)
吉田泰(専25)
阿部定生(昭26)
山口広雄(昭26)
小幡裕(昭28)
鈴木正巳(昭28)
関正利(昭28)
宇都宮実(昭29)
浅利行男(昭30)
関光倫(昭31)
李保文彦(昭31)
福田陽(昭32)
高木良章(昭34)
吉川保雄(昭34)
永島敬士(昭35)

村田忠雄(昭36)
吉川武彦(昭36)
川瀬健二(福景医大・昭36)
玉田輝己(日本大理・昭36)
宮治誠(昭38)
守矢和人(昭38)
清水多恵子(昭40)
余哲雄(昭40)
ウンシータン(昭42)
Tang(King) Twok(昭42)
河野光裕(昭45)
渡辺良友(昭49)
藤野道夫(昭61)
飯嶋義浩(昭62)
浅野康治郎(平5)
猶木睦子(平9)

千葉医学雑誌91巻1号 2015年2月

原著

死因・身元調査法に基づく解剖の実施状況について

石原憲治 武市尚子 池谷 博 出羽厚二 吉田謙一 岩瀬博太郎

症例

腹水濾過濃縮再静注法(CART)を繰り返して行うことにより腹水が減少した

肝硬変の2例 本島柳司 村岡正人 本島悌司

耳下腺に発生した硬化性多嚢胞性腺症の1例

鈴木理樹 野下寛徳 神戸美千代 岸本 充 太田 聡

茶園英明 岡本美孝 堀越琢郎 宇野 隆 中谷行雄

話題

医学用語語源対話 IV

杉田克生 池田黎太郎

千葉医学会奨励賞

頭頸部扁平上皮癌におけるマイクロRNAの関わり

木下 崇

海外だより

Neglected Environmental Diseaseへの取り組み—WHO本部からの手紙—

戸高恵美子

立石順久

Emory大学留学記

学会

第1271回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院

消化器・腎臓内科学(旧第一内科)例会

第1289回千葉医学会例会・第30回千葉泌尿器科同門会学術集会

OAP要旨

川崎病の遺伝的背景の解明

尾内善広

編集後記

松江弘之

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

The Chiba Medical Society Award (2014)

Identification of susceptibility genes for Kawasaki disease Yoshihiro Onouchi

千葉医学雑誌91巻2号 2015年4月

原著

腹腔鏡を用いた安全な人工肛門閉鎖術の考案

佐塚哲太郎 菅本祐司 福長 徹 田崎健太郎 太田拓実 竹下修由

浦濱竜馬 會田直弘 浅井 陽 石岡茂樹 木村正幸 松原久裕

症例

肥満患者の減量中に自然退縮した肝細胞癌の1例

菅本祐司 太田拓実 木村正幸 福長 徹 田崎健太郎 佐塚哲太郎 竹下修由

丸山哲郎 玉地智英 篠崎正美 藤本 肇 江口正信 松原久裕

腎癌多発隣転移に対して臍頭十二指腸切除および腫瘍核出術を施行した1例

佐塚哲太郎 田崎健太郎 福長 徹 菅本祐司 太田拓実 浦濱竜馬

浅井 陽 石岡茂樹 花井 禎 江口正信 木村正幸 松原久裕

外傷性膀胱性嚢胞による食道狭窄が疑われた1例

水藤 広 羽成直行 林 秀樹 郡司 久 加野将之 仙波義秀

磯崎哲朗 山口有輝子 白石 匡 松原久裕

エッセイ

白壁彦夫先生教授室

小俣政男

海外だより

サンディエゴ留学記

赤木龍一郎

学会

第1301回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

雑報

出来る内科医とは—分野別内科学の観点から

関根郁夫

OAP要旨

心の健康問題のある人々が復職に重要とみなす因子は何か? :パイロット研究

原口 正 山内直人 伊豫雅臣 清水栄司

編集後記

羽田 明

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

What factors do people with mental health problems consider important for

return to work?: A pilot study

Tadashi Haraguchi, Naoto Yamanouchi, Masaomi Iyo and Eiji Shimizu

第92回千葉医学会総会開催のご案内

第91回千葉医学会学術大会

編 集 後 記

の は な 同 窓 会 が 縁 で 編 集 委 員

の 事 に 参 加 し て 約 1 年 で す。

大 学 や 研 究 に お け る 具 体 的 な 縁 が

切 れ て す で に 20 年 近 く 経 っ て る 自

分 と し て は、ど こ か 異 次 元 の 世 界

に い る よ う な 気 持 ち で あ り、こ の

編 集 後 記 に 当 番 と し て 回 っ て き た

こ と も 少 し 当 惑 ぎ み で す。

最 近、高 校 生 の 生 物 の 参 考 書 等

を み る 機 会 が あ り ま し た が、そ こ

に は 免 疫 グ ロ ブ リ ン 遺 伝 子 の 再 構

成 の 仕 組 み、さ ら に は B 細 胞 の 受

容 体 と し て の 働 き が ご く あ た り ま

え に 記 載 さ れ て い ま し た。

自 分 が 医 学 部 を 受 験 し た 時 の 我

が 千 葉 大 学 医 学 部 の 生 物 の 受 験 問

題 が、確 か D N A 塩 基 配 列 か ら 遺

伝 暗 号 表 を 参 照 し な が ら ア ミ ノ 酸

配 列 を 決 定 す れ ば よ く、し か も そ

れ が 大 問 1 問 で あ っ た こ と を 思 い

出 す と、な ん と も 感 慨 深 い も の が

あ り ま す。

学 問 の 府 で あ る 大 学 の 研 究 に お

い て は、最 終 的 に は 教 科 書 に 載 る

よ う な 普 遍 的 な も の を 目 指 し て い

た だ き た い と 思 い ま す。

本 会 誌、高 林 克 日 己 先 生 の 最 終

講 義 の 記 録 の 中 で の ダ ー ウ イ ン の

言 葉 を 参 照 し て、変 化 に 対 応 で き

る 種 が 生 き 残 れ る と あ り ま す。ま

さ に そ の と お り で 非 常 に 示 唆 的 だ

と 思 い ま す。

医 学 部 の よ う に あ る 意 味 で ハ イ

レ ベ ル に 特 化 し 精 密 な 集 団 こ そ

常 に 意 識 し て い か な い と い け な い

と 感 じ て お り ま す。

木 元 博 史 (昭 61)